

1 総合研究博物館の組織—2005年度—

館長 大木 公彦 教授

研究部

資料研究系	大木 公彦 教授	地質学
	橋本 達也 助教授	考古学
	福元しげ子 助手	博物館資料学
分析研究系	落合 雪野 助教授	民族植物学、東南アジア地域研究
	本村 浩之 助教授	魚類分類学 (2005年11月より)
事務補佐員	坂元 理恵 (2005年8月まで)	
	永吉ルミ子 (2005年9月より)	
事務補佐員	佐々木恵子	
技術補佐員	鮫島 弘子 (2005年5月まで)	
技術補佐員	岩井 雄次	
事務局	研究協力部研究協力課研究支援係	

運営委員 (総合研究博物館専任教官を除く)

法文学部	榎股 一索 教授	教育学部	伊藤 正 教授
理学部	山根 正気 教授	医学部	井上 尚美 講師
歯学部	島田 和幸 教授	工学部	西 隆一郎 助教授
農学部	櫛下町鉦敏 教授	水産学部	四宮 明彦 教授

兼務教員

地球科学分野

森脇 広	法文学部	(自然風景の変化に関する研究)
松井 智彰	教育学部	(斜長石巨晶の鉱物学的研究)
八田 明夫	教育学部	(理科教育、有孔虫の研究)
井村 隆介	理学部	(活断層と活火山の活動史とその災害に関する研究)
大塚 裕之	理学部	(古脊椎動物の分類と進化に関する研究)
河野 元治	理学部	(鉱物科学・粘土科学・地球環境科学)
小林 哲夫	理学部	(火山地質、噴火現象、テフロクロロジー)
根建 心具	理学部	(原始地球における生命と環境の共進化)
山本 啓司	理学部	(ヒマラヤ山脈のテクトニクス)
櫻井 仁人	工学部	(黒潮流軸変動・鹿児島県の気候と海)
西 隆一郎	工学部	(海洋地形学)
市川 洋	水産学部	(海洋物理学・黒潮流軸変動に関する研究)
日高 正康	水産学部	(海底地質学・浅海沿岸域の海底地質と底層流)

生物学分野

野田 伸一	多島圏研	(医学的に重要な昆虫・ダニ類の分布)
久保田康裕	教育学部	(植物群集の動態と多様性の維持機構)
宮本 句子	理学部	(陸上植物の多様性の解析)
相場慎一郎	理学部	(多雨林の樹木種多様性)
鈴木 英治	理学部	(熱帯林の動態と更新・鹿児島県の植生)

一谷 勝之	農学部	(作物の遺伝的多様性)
馬田 英隆	農学部	(きのこ学・菌類生態学・造林学)
米田 健	農学部	(森林の生態と管理)
富永 茂人	農学部	(農業技術と農器具の進歩に関する研究)
遠城 道雄	農学部	(熱帯産イモ類の生理・生態および形態学的研究)
塚原 潤三	理学部	(海産無脊椎動物の生殖と発生)
山根 正気	理学部	(東南アジア産剣膜翅類の分類と生物地理)
富山 清升	理学部	(軟体動物貝類)
佐藤 正典	理学部	(海産底生無脊椎動物の分類学的研究)
中西 良孝	農学部	(在来家畜および野生動物の保護と活用に関する研究)
櫛下町 鉦敏	農学部	(農林業害虫の生態および食虫性昆虫の分類と生態)
安藤 清一	水産学部	(水棲動物の脂質輸送タンパク質遺伝子の in silico クローニング)
四宮 明彦	水産学部	(魚類の分類生態学の研究)
鈴木 廣志	水産学部	(大型十脚甲殻類の分類と生態)
大富 潤	水産学部	(エビ・カニ類および魚類の資源生物学)
山本 智子	水産学部	(海洋生物の群集生態学的研究)
寺田 竜太	水産学部	(紅藻オゴノリ目藻類の分類)
山田 章二	水産学部	(魚類ペプチターゼ遺伝子のcDNA解析)

考古学・歴史学・民俗学分野

本田 道輝	法文学部	(九州と南西諸島の文化交流の研究)
新田 栄治	法文学部	(東南アジア考古学)
渡辺 芳郎	法文学部	(薩摩焼の考古学的研究)
原口 泉	法文学部	(薩摩藩の博物学)
下原 美保	教育学部	(近世初期のやまと絵について、近世薩摩の絵師について)
伊藤 正	教育学部	(ギリシア古代の研究)
梅野 正信	教育学部	(歴史教育)
日隈 正守	教育学部	(九州諸国における中世一宮制の成立・展開過程の研究)
河原 尚武	教育学部	(鹿児島における学校関係資・史料の調査研究)
藤枝 繁	水産学部	(鹿児島県海岸における漂着物に関する研究)

理学・教育学分野

森 邦彦	学術情報基盤センター	(光情報処理、遺伝的アルゴリズム)
佐野 英樹	学術情報基盤センター	(システム制御理論)
土田 理	教育学部	(観察・実験場面における児童・生徒のグラフ認知過程、観察・実験活動へ児童・生徒同士のコミュニケーションが果たす役割)
有馬 一成	理学部	(タンパク質分解酵素アイソザイムの分子進化)
坂元 隼雄	理学部	(環境試料中の微量元素の含有量と分布)
穴澤 活郎	理学部	(非人為作用による水質形成機構の解明)
富安 卓滋	理学部	(環境中における水銀の挙動)
楠元 芳文	理学部	(グラファイトシリカと光触媒に関する研究)
八木 史郎	農学部	(植物・菌類のレクチンタンパク質の分布)
大西 佳子	歯学部	(歯学関係の展示研究、サイエンス・コミュニケーション)

学外協力研究者

- 秋元 和実：熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター助教授（古生物学、底生有孔虫類を用いた地質時代の海洋環境の復元）
- 池田 豪憲：（鹿児島県から琉球列島に至る地域の樹木分類）
- 石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学、熱帯果樹、植物、野菜類の導入、順化、生態、形態の研究評価とそれらの栽培及び改良に関する研究）
- 稲田 博：（社）鹿児島県測量設計業協会 常任顧問（河川工学）
- 浦島 幸世：鹿児島大学名誉教授（地殻における元素の移動と濃集、たとえば熱水の溶存物質の移動と濃集による金属鉱床の研究）
- 太田 英利：琉球大学熱帯生物圏研究センター助教授（爬虫両生類の系統・分類・生物地理・自然史・保全、特にアジア東部からオセアニア西部にかけての亜熱帯および熱帯域の島嶼における種分化、系統進化について研究）
- 木下 紀正：鹿児島大学地域共同研究センター客員教授（素粒子・原子核物理学・衛星データによる環境解析による地球環境科学）
- 税所 俊郎：鹿児島大学名誉教授（海洋生物学、水族生態学、水産動物学に関する研究）
- 鮫島 正道：第一幼児教育短期大学助教授（動物形態学、鳥類骨格による比較形態学的研究、鹿児島県に分布する脊椎動物のフィールド調査による生態観察と分類・形態学的研究）
- 下山 正一：九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門生物圏進化学講座助手（古生物学と地質学、軟体動物化石の系統分類と群集古生態の研究・生物起源堆積物の生成、運搬、拡散過程の理論的研究・新生代の地層区分と年代測定に関する地質学的研究・化石と地層を使った九州の地殻運動累積傾向の研究）
- 田川日出夫：鹿児島大学名誉教授（生物学・植物分類学）
- 田代 正盛：タシロ眼科医院（医学・眼科、眼球の病理組織学的研究）
- 土田 充義：鹿児島大学名誉教授（日本建築史、神社建築・日本の民家・近代建築を研究）
- 西中川 駿：鹿児島大学名誉教授・放送大学鹿児島学習センター所長（動物考古学、動物解剖学）
- 早坂 祥三：鹿児島大学名誉教授（層位学、古生物学、地史学、海洋地質学）
- 福田 晴夫：鹿児島県自然環境保全審議会委員（昆虫生態学、蝶類の生活史・日本蝶相の成立史、とくに南方からの移動種に関する研究）
- 藤田 晋輔：鹿児島大学名誉教授（樹木の材鑑定、循環型社会システムの技術的構築、有機系廃棄物のエネルギー化と有価物化）
- 堀田 満：鹿児島県立短期大学長・鹿児島大学名誉教授（植物系統分類・地理学、熱帯植物学、有用・民族植物学の研究）
- 丸野 勝敏：（カヤツリグサ科植物、ハリイ属植物、ミクリ科植物の分類）
- 萬田 正治：鹿児島大学名誉教授（畜産学・とくに動物行動学を基礎とする家畜管理技術の開発）
- 三木 靖：鹿児島国際大学短期大学部長（中世城郭史、日本荘園史、戦国史、南島史、文化財史の研究）
- 山下 智：鹿児島大学名誉教授（動物生理学とくに味覚・嗅覚の神経生理学を専門とし、化学感覚の神経情報の電気生理学的解析、および昆虫、魚類、両生類にわたる比較生理学の研究）
- 湯川 淳一：九州大学名誉教授・鹿児島大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究・昆虫と寄主植物の相互関係・地球温暖化が昆虫に及ぼす影響・インドネシア、クラカタウ諸島の生態遷移に関する研究）

2 総合研究博物館規則等

鹿児島大学総合研究博物館規則

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則（平成16年4月1日制定）第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という）の組織に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 博物館は、鹿児島大学（以下「本学」という）の学内共同教育施設として、本学の学術標本資料の収蔵、展示、公開及び学術標本資料に関する教育研究支援を行うとともに、学内外の教育研究活動に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 博物館においては、次に掲げる業務を行う。

- 1) 学術標本資料の収集及びその利用に関すること。
- 2) 学術標本資料の解析及び学術評価に関すること。
- 3) 学術標本資料の情報化に関すること。
- 4) その他博物館の目標を達成するために必要なこと。

(研究部)

第4条 博物館に、研究部を置く。

- 2 研究部に次の2系を置く。

資料研究系

分析研究系

(職員)

第5条 博物館に、次に掲げる職員を置く。

- 1) 館長
- 2) 専任教員
- 3) その他必要な職員

- 2 前項第2項及び3号の職員は、博物館長の命を受け、博物館の業務に従事する。

(博物館長)

第6条 博物館長は、本学の専任教授のうちから、国立大学法人鹿児島大学学内共同教育施設等人事委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 博物館長は、博物館の業務を掌理する。
- 3 博物館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、博物館長に欠員を生じた場合の補欠の博物館長の任期は、前任者の残任期間とする。

(兼務教員)

第7条 博物館に、兼務教員を置くことができる。

- 2 兼務教員は、所属部局長を経て申し出のあった者について、学長が兼務を命ずる。
- 3 兼務教員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(研究協力者)

第8条 博物館に、学外協力研究者を置くことができる。

- 2 協力研究者は、第4常置（教育・社会連携）委員会の議を経て、博物館長が委嘱する。

(事務)

第9条 博物館に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、博物館に関し必要な事項は、博物館長が別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行前に在職する博物館長は、この規則により選考された博物館長とみなし、その任期は第6条3項本文の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。
- 3 この規則の施行前に在職する兼務教員は、この規則により兼務された兼務教員とみなし、その任期は、第7条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

国立大学法人鹿児島大学総合研究博物館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学常置委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条第3項の規定に基づき、国立大学法人鹿児島大学総合研究博物館運営委員会（以下「委員会」という）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 1) 博物館長
 - 2) 博物館の専任教員
 - 3) 各学部及び大学院医歯学総合研究科の教授、助教授又は講師のうちから選出された者各1名
- 2 前項第3号に規定する委員は、それぞれの部局の長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 第1項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、第4条第1項（研究・社会連携）委員会が定める管理及び運営の基本方針に基づき、博物館の運営に関する具体的事項を審議する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、博物館長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は出席委員の過半数により決し、可否同数のときには議長の決するところによる。

(代理出席)

第6条 委員が事故のために出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 委員会に、専門的事項を審議するため、部会を置くことができる。

- 2 部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規則は平成16年4月1日から施行する。

鹿児島大学総合研究博物館学外協力者に関する申し合わせ

(趣旨)

- 1 鹿児島大学総合研究博物館規則第8条第1項の規定に基づき、鹿児島大学総合研究博物館(以下「博物館」という)の研究等の推進を図るため、学外協力研究者に関する必要事項について申し合わせる。

(申し込み)

- 2 学外協力研究者として、博物館において協力活動を行おうとする者は、所定の申込書(別紙様式第1号)により博物館長に提出するものとする。

(選考方法)

- 3 博物館長は、2により申し込みのあった者について、鹿児島大学総合研究博物館運営委員会(以下「運営委員会」という)で選考し、第4常置(研究・社会連携)委員会に推薦するものとする。

(受入期間)

- 4 学外協力研究者の受入期間は2年とし、再任は妨げない。

(給与及び経費)

- 5 学外協力研究者にかかる給与及び必要経費については、博物館は負担しない。

(協力内容)

- 6 学外協力研究者は、博物館の職員と連携し、博物館の標本の整理・保管、その標本に基づく研究等のための協力を行うものとする。

(研究の公開)

- 7 学外協力研究者は、博物館の協力活動を通じて知り得た研究データ等を公開しようとする場合は、博物館長の承諾を得て行うものとする。

(活動中の事故)

- 8 学外協力研究者が活動中に不慮の事故を受けた場合は、それにかかる費用は本人が負担するものとする。

(その他)

- 9 この申し合わせに定めるもののほか、学外協力研究者に関する必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行前に委嘱された学外協力研究者の受入期間は、4の規定にかかわらず平成17年3月31日までとする。

鹿児島大学総合研究博物館専門委員会内規

法人化に伴い、鹿児島大学総合研究博物館規則は変更したが、専門委員会の内規の変更は行わなかった。2006年度から変更。

(趣旨)

- 1 鹿児島大学総合研究博物館運営委員会規則第8条の規定に基づき、専門委員会に関する必要事項を定める。

(専門委員会)

- 2 専門委員会に次の3つの委員会を置く。

- 1) プロジェクト推進委員会

- ・研究プロジェクトの企画・実施
- ・研究プロジェクトの推進を支援するための活動

2) 企画交流委員会

- ・シンポジウム、研究会、公開講座等の企画及び実施
- ・学外協力研究者の募集・登録及び協力研究者との情報交換
- ・ボランティアの募集・登録及びボランティアとの情報交換
- ・客員研究員の募集

3) 出版広報委員会

- ・ニュースレター、広報等の編集・刊行
- ・モノグラフの編集・刊行
- ・ホームページの編集・管理
- ・その他博物館の行う出版広報活動

(委員長および委員)

- 3 兼務教員の中から館長・専任教員が各専門委員会の委員長を選出し、委員長および専任教員が各委員会3名、計9名の兼務教員を委員に推薦する。

(委員長および委員の任期)

- 4 各専門委員会の委員長および委員の任期は2年間とする。但し再任は妨げない。

(専任教員および館長)

- 5 専任教員はすべての委員会の委員として出席する。館長はすべての委員会に出席することができ、必要と考える時は、委員長に会議の開催を要請できる。

(兼務教員の参加)

- 6 各専門委員会委員長は、プロジェクト・企画交流・出版広報の各委員会にその分野に関する兼務教員の参加を求めることができる。

(兼務教員の招集)

- 7 重要議題については、館長が兼務教員を招集し意見を聞くことができる。
その場合、館長が議長となる。

附則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行前に在任する専門委員は、この規則により兼務された兼務教員とみなし、その任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。
- 3 この内規施行後、実状に即して内規を変更することができる。
(3の規定：平成13年11月14日に行われた第5回運営委員会にて変更)

10月29日（土） 14：00～16：00

第9回 市民講座 「山地に暮らす人々－その歴史と文化」

講師：クリスチャン・ダニエルス（東京外国語大学教授）

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟201室（参加費無料）

10月17日（月）～11月16日（水） 10：00～17：00

第5回 特別展「植物のビーズ -おしゃれ！ジュズダマ」

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟2階 プレゼンテーションホール（観覧料無料）

12月3日（土） 13：30～17：00

第10回 研究交流会 「黒潮を渡った旧石器時代の人びと」

講演1：「鹿児島県の旧石器時代－最近の調査成果より－」

宮田栄二（鹿児島県埋蔵文化財センター文化財主事）

講演2：「旧石器時代の鹿児島の環境」

井村隆介（鹿児島大学理学部助教授）

講演3：「世界最古の航海民－琉球列島の旧石器文化－」

小田静夫（元東京都教育庁・東京大学講師）

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟201室（参加費無料）

2006年1月28日（土） 14：00～16：00

第5回 公開講座 「アートを楽しむ段取り」

講師：宮園広幸（松陽高校教諭）

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟201室（参加費無料）

5 2005年度の活動報告

1. 研究交流会

(1) 第9回「世界の水銀汚染と水俣」

2005年6月24日(金)に有限会社国際水銀ラボ所長の赤木洋勝氏(元国立水俣病総合研究センター)を迎え、研究交流会を開催した。

最初に、赤木洋勝氏が「世界の水銀汚染を捉える」と題して講演し、熊本県水俣市で発生した水俣病の発生メカニズムを含め、水銀汚染について、さらに赤木法と世界で呼ばれる総水銀分析法およびメチル水銀分析法を確立するまでの経緯を説明した。それらの手法を用い、赤木氏が携わってきた水銀汚染調査研究について紹介し、世界から報告された農薬水銀汚染、金採掘による水銀汚染の実態と問題点についてわかりやすく説明した。とくに、発展途上国で行われている金採掘の過程で使用された水銀の回収がほとんど行われていない報告には、参加者の中から驚きの声があがった。

赤木洋勝氏の講演に引き続き、総合研究博物館長の大木が、博物館兼務教員の富安卓滋氏(理学部助教授)と共同で行っている調査研究について「八代海に水銀が広がっているか」と題して講演した。南部八代海の62地点から採取した海底表層堆積物(柱状コア)の粒度分析、赤木法による水銀分析結果から、1930年代以降に新日本窒素(現チッソ)水俣工場から排出された水銀を含む堆積物が、水俣湾沖から海岸に沿って北東へ、また南部八代海を横切って西へ拡散していることを報告した。さらに、水俣湾に近い地点では水銀量が減っているものの、遠い地点ではむしろ増加していることを報告し、水銀汚染後に産出頻度が増加し、最優勢種になった底生有孔虫の存在に触れた。

金曜日にもかかわらず45名の参加者があり盛会であった。



赤木 洋勝氏



第9回研究交流会



大木 公彦

(2) 第10回「黒潮を渡った旧石器時代の人びと」

2005年12月3日、13:30～17:00に3人の講師を迎え研究交流会を開催した。鹿児島県下では近年、高速道路などの大規模工事に伴って、良好な旧石器時代遺跡の発掘調査が相次いでいる。また、鹿児島は火山が多く、地質時代からの火山噴出物が幾層にも堆積し、地層観察に基づく地質学的な年代・環境復元に関する研究も盛んに行われている。

今回の研究交流会ではこのような研究状況をふまえ、実際に鹿児島県下の発掘調査を指揮し、旧石器研究を進めている宮田栄二氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター文化財主事）、鹿児島県を中心として九州南部の火山や地質環境研究を推進する井村隆介氏（鹿児島大学理学部助教授）、琉球列島から東南アジアまでに広い地域に及ぶ旧石器時代研究で知られる小田静夫氏を迎え、下記の要領で各講師から講演をいただいた。

会には専門研究者から学生・一般の方々まで幅広い参加者があり、きわめて盛況といえ、当初予定した机や椅子も足りず他の部屋から急遽追加で調達するというこれまでにない状況であった。

第10回研究交流会

「黒潮を渡った旧石器時代の人びと」

講演1 「鹿児島の旧石器時代

－最近の調査成果より－

宮田栄二

(鹿児島県埋蔵文化財センター)

講演2 「旧石器時代の鹿児島の環境」

井村隆介 (鹿児島大学理学部)

講演3 「世界最古の航海民

－琉球列島の旧石器文化－

小田 静夫

(元東京都教育庁・東京大学講師)

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟201室

(参加費無料)



第10回研究交流会



宮田 栄二氏



井村 隆介氏



小田 静夫氏

2. 市民講座

(1) 第8回「雪舟と桂庵玄樹」



第8回市民講座



渡辺 雄二氏

2005年5月14日、講師に渡辺雄二氏（福岡市美術館学芸員）をむかえ、第8回市民講座「雪舟と桂庵玄樹」を開催した。室町時代に水墨画家として活躍した禅僧の雪舟（1420～1506年）と、臨済宗の僧侶で薩南学派をおこした桂庵玄樹（1427～1508年）の関係に着目し、そこから新たな雪舟像を構築する意欲的な試みとなった。

渡辺氏は、みずからが足を運んで撮影された鹿児島県各地の桂庵玄樹ゆかりの地の写真や、雪舟と桂庵玄樹の年表、古文書を示しながらお話しくださったため、54名の参加者は地元に着した歴史的な事象をリアリティをもって理解することができた。また、質疑応答の時間には、桂庵玄樹を研究された郷土史家の方々から専門的な質問があがり、議論がいつそう深まった。

2006年は、雪舟の没後500年にあたる節目の年であり、雪舟に関連する展覧会やイベントが山口県や福岡県で開催されたが、それらを先取りした企画になったといえるだろう。渡辺氏をご紹介いただいた下原美保氏（鹿児島大学教育学部助教授、本館兼務教員）、広報ポスターをデザインしてくださった茂木一司氏（群馬大学教育学部）、そしてポスターに桂庵玄樹の肖像を使うことをご許可くださった鹿児島県歴史資料センター黎明館に深く感謝したい。

(2) 第9回「山に暮らす人々—その歴史と文化」

本講座は、第5回特別展「植物のビーズ—おしゃれ！ジュズダマ」の関連イベントとして企画した。特別展では、東南アジア大陸部山地の地域住民が製作した資料を、多数展示している。その住民たちは現在、どのような生活をし、過去にどのような歴史的変遷をたどってこの地で暮らすようになったのかなど、資料の製作された背景を理解するため、講師にクリスチャン・ダニエル



第9回 市民講座

ス氏（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）をお招きした。ダニエル氏は、中国雲南省を中心に歴史研究を展開し、生業活動や物質文化の変化を明らかにしている。その成果は、『雲南の生活と技術』（渡部武との共編著、1994年、慶友社）や「東南アジアと東アジアの境界から—タイ文化圏の歴史」『境界を越えて—東アジアの周縁から』（立見編、2002年、山川出版社）などに代表される著作として発表されている。

さて2005年10月29日の講座当日は、フィールドワークで撮影した写真や、古文書の記述や絵画の記録をふんだんに示しながら、60分間にわたってお話いただいた。参加者は41名にのぼった。東南アジア大陸部山地は、中国、インド、ミャンマー、タイ、ラオスの国境にまたがった地域であり、民族構成が複雑で、各国の政治や経済のはざまにおかれていることから、その全体像をつかみにくい地域である。だが、ダニエルズ氏は「タイ文化圏」の概念を提示することにより、国境に関係なく展開される人々の暮らしや歴史を、非常にわかりやすく解説してくださった。講座終了後にあらためて展示資料を見たとき、これを作り使ってきた人たちの息吹がなまなましく感じられるものとなった。



クリスチャン・ダニエルズ氏

3. 公開講座

(1) 第5回自然体験ツアー「これもつかえる・あれもつかえる－身体をつつむかたち－」

2005年度自然体験ツアーは、佐藤優香氏（国立歴史民俗博物館助手）をコーディネーターに、第5回特別展「植物のビーズ－おしゃれ！ジュズダマ」のプレイベントとして企画された。この自然体験ツアーの企画や製作のプロセスに関しては、すでに佐藤氏が本館ニュースレター12号（2006）に記録しているので、そちらを参照されたい。本稿では、その運営にかかわる部分について、ご協力いただいたキーパーソンを中心に紹介する。

1) 下原美保氏（鹿児島大学教育学部助教授、本館兼務教員）

このイベントの企画は、2004年秋、下原氏から、ミュージアム・ファシリテーターとしてユニークな活動を展開している佐藤氏を鹿児島大学に呼び、学生たちといっしょにワークショップをしたらどうか、博物館教育の点で意義深いのではないかという提案をいただいたことにはじまる。また、準備段階から教育学部学生の参加をうながし、実際的な学習の場として活用するといった積極的な貢献をしてくださった。

2) 宮蘭広幸氏（松陽高校教諭、元鹿児島県霧島アートの森学芸員）

下原氏を通じて、2005年1月に鹿児島県霧島アートの森に開催の打診をした際、対応の窓口となってくださったのが宮蘭氏であった。このとき宮蘭氏からは、鹿児島県内での博物館と美術館の共同開催、自然体験ツアーなのでアートの森の「森」の部分を生かす工夫、さらには2005年度に開催予定のファッション展との関連性など、自然体験ツアーの意味づけをめぐって重要な提案がなされている。

3) 餅原宣久氏（鹿児島県霧島アートの森学芸員）

餅原氏には、転勤された宮蘭氏のあとをひきついで、2005年4月から自然体験ツアーの実施にかかわる具体的な協力をいただいた。「衣服の領域」展との協力関係のあり方から、広報ポスターでの案内表記、会場使用時の注意や参加者の安全確保にいたるまで、餅原氏の綿密で的確なアドバイスがあったからこそ、自然体験ツアーのスムーズな運営が可能になった。さらに当日は、「衣服の領域」展の会場で展示解説をしてくださった。

4) 小池一子氏（武蔵野美術大学教授）

小池氏は、2005年7月から9月にかけて、鹿児島県霧島アートの森で開催された「これが服なの？ファッションの越境『衣服の領域』」展のキュレーターである。自然体験ツアーを、「衣服の領域」展と連動させたイベントとしての位置づけるためのご理解、ご協力をいただいた。同展オープニング・イベントに出席し、展示やインスタレーションをみたことは、特別展の企



第5回自然体験ツアー

画や資料の見せ方を考えるうえでの大きな刺激となった。

5) 山本みどり氏、石塚裕子氏、瀬川裕子氏（鹿児島大学大学院教育学研究科院生）、米盛久美子氏（鹿児島大学教育学部学生）

山本氏、石塚氏、瀬川氏は、ファシリテーター集団「おてつ隊」として、事前に参加者が使う素材を確保し、参加者の体験や発見を記録するためのカードを作成した。当日は参加者の脇に立ってものづくりをサポートした。彼女たちの柔軟で細やかな対応によって、参加者の活動がよりいきいきとしたものになった。米盛氏は当日の活動をビデオ撮影し、映像記録を作成した。

6) 茂木一司氏（群馬大学教育学部教授）

茂木氏は、つぎのプロジェクトを遂行する立場から自然体験ツアーに立会い、コーディネーター、ファシリテーター、参加者の行動や気づきを検証した。

平成17年度 日本学術振興会 人文・科学振興プロジェクト研究事業 V「文学と芸術の社会的媒介機能」芸術とコミュニケーションに関する実践的研究 アート・ワークショップ部門

平成17年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)「芸術・文化の発信・交流を促す学習環境のデザインとワークショップ教材の実践・評価－異文化理解のためのメディア活用型総合学習パッケージの開発の調査・研究－」

7) 参加者

当日は5家族13名のこどもとその保護者、学生5名が参加した。落合による話「身近な素材で身体をつつむー東南アジアの山の村の暮らし」を聞いたあと、餅原氏の解説を聞きながら「衣服の領域」展を見学し、さらにそれぞれが持ちよった素材を見ながらどんなものをつくるのかを考えた。昼食後、さっそく素材を使って自分の身体をつつんだ。素材を切ったり貼ったりするうち、どんどん新しい発想が生まれ、身体をつくるものは変化をとげた。その展開のなりゆきをおおらかにうけとめ、ものの意味をとらえていくこどもたちの姿が印象的であった。最後に展覧会を開いてみんなのつくったものをあじわい、一日をふりかえった。

鹿児島市内からの移動中高速道路でバスが事故渋滞に巻き込まれる、大雨のため屋外での展覧会開催ができないなど、思いがけないアクシデントにも見舞われたが、無事に一日のツアーを終了することができた。実験的な内容を含むイベントだったため、参加申込者が全体少なかった点が心配されたが、来てくださった人はみな熱心であった。こどもむけの美術関連イベントは少ないので、今後も継続してほしいとの要望を寄せていた参加者もいた。

最後に、自然体験ツアー開催にご協力いただいた鹿児島県霧島アートの森に、深く感謝したい。

(2) 第5回 公開講座「アートを楽しむ段取り」

2005年度公開講座は、2006年1月28日「アートを楽しむ段取り」というテーマで、宮藺広幸氏にお話しいただいた。そのテーマは、多様化したアートの現場にどう接するかということであった。この大きな問題にたいし、宮藺氏は、さまざまな立場からアートに関する活動されてきた経験を生かし、多角的に光を当ててくださった。

宮藺氏は、現在鹿児島県立松陽高校の教諭をしておられ、美術教育という側面から高校生たちとかかわっている。また、造形作家として数々



宮藺 広幸氏



第5回公開講座

の彫刻作品を制作している。その実物に触れたことのある方も多いただろう。さらに、鹿児島県霧島アートの森の学芸員として文化行政やキュレーションにたずさわる、国際海外協力隊ザンビア派遣隊員として国際協力の現場にたちあう、コンテストで作品を審査するといった活動も行っている。つまりアートを作る場、見る場、見せる場、教える場をいききしてきた実績が、この講座の内容に凝縮されていたのである。数々の美しいスライドとわかりやすい説明に、教育学部の学生を中心にした59名の参加者は、今後ひとりひとりがアートを楽しく実践する手がかりをつかむことができたと思う。

なお、本講座のコーディネートは下原美保氏（鹿児島大学教育学部助教授、本館兼務教員）、ポスターデザインは茂木一司氏（群馬大学教育学部教授）がそれぞれ担当した。

4. 特別展 第5回 「植物のビーズ -おしゃれ! ジュズダマ」

第5回特別展では、館外の研究機関、団体や個人と意識的に連携し、展示を作り上げることをこころみた。準備期間、開催期間をふりかえり、この間のできごとを以下に報告する。

(1) 概要

1) 展示資料

ジュズダマ属植物（イネ科）の種子をビーズのように使った衣服や装身具などの資料、260点を展示した。これは、1994年から2005年にかけて、落合雪野（本館助教授）が東南アジアや東アジアを中心にした民族植物学的研究をおこなう過程で収集したものである。したがって、この特別展は展示というスタイルでおこなう、研究成果の公開の機会であるということができる。

2) 主旨

「おしゃれ」という視点から実物資料をみるにより、身近な自然環境に生育する植物と人との関係、植物資源を基盤にした生活文化のひろがりについて、実感し、考える展示。

3) 会場と構成

鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟2階プレゼンテーションホール

- ① 「世界のいろいろな場所でジュズダマはつかわれる」
- ② 「身体をおしゃれする 東南アジアと東アジアの島々1」
- ③ 「家をおしゃれする 東南アジアと東アジアの島々2」
- ④ 「仏教とジュズダマ 東南アジア大陸部1」
- ⑤ 「身体をおしゃれする—山地民 東南アジア大陸部 2」
- ⑥ 「さまざまな色とかたちをひとつに—アカ人 東南アジア大陸部3」
- ⑦ 「細長い種へのこだわり—カレン人 東南アジア大陸部4」
- ⑧ 「流行するジュズダマ・スタイル 東南アジア大陸部5」
- ⑨ 試着コーナー（資料の一部を実際に着用し、その記念写真を撮影する）

4) 期間と来場者数

2005年10月17日から11月16日の30日間開催し、1311名の来場者があった。

(2) 準備

1) 資料の借用

国立民族学博物館から、ニューギニアとその周辺地域および南西諸島での収集資料12点を借

用、うち11点を展示した。会場の構造や装置が、空調、照明、防犯対策などの点で通常の博物館等展示室とは異なるため、担当の大矢修氏（国立民族博物館情報企画課専門職員）と事前に入念な打合せが必要であった。

この他に、黄曉慧氏（服飾デザイナー）、Nang Mo Kham氏（元タウンジー博物館学芸員）、松井健氏（東京大学教授）からも、資料を借用、展示した。

2) 広報と会場のデザイン

博物館展示の広報や会場のデザインは、専門の業者に依頼し、製作してもらうのがふつうであるが、本特別展では大学博物館の強みを活かし、学内の人材すなわち教育学部美術科の学生にその役割をはたしてもらったらどうかと考えた。この件を下原美保助教授（鹿児島大学教育学部）に相談したところ、久木田龍一氏（鹿児島大学教育学部4年生）が卒業制作として担当することに決まった。

久木田氏はキュレーターからの発注をうけ、サイズや枚数、文字情報などについてうちあわせたのち、デザインを考案、製作し、実際に公開するまでのすべての過程を担当した。その結果、公開された作品は、シンボルマーク、特別展ポスター、特別展市電車内広告、特別展ポストカード、ニュースレター表紙、会場案内ポスター、自然体験ツアーポスター、市民講座ポスター、ギャラリートークポスターにおよぶ。このような広報デザインにおける久木田氏独自のアイデアは、展示会場に来場者が足を運ぶきっかけとして効果の高いものであった。また、つぎに紹介する川畑健一郎氏と協力して、会場デザインの基本計画を作成した。これにより広報と会場とにデザイン上の統一感がうまれた。

3) 展示会場の構成、製作

展示会場の構成は川畑健一郎氏（ファクトリー 1202代表、家具職人）が担当した。川畑氏は、展示会場と展示資料を入念に下見したうえで、久木田氏の提案した基本デザインをベースに設計を考え、工事現場の足場用素材をつかって会場を構成した。組んでばらして何度もくりかえし使える足場素材と、同様につなげてものを作るジュズダマ種子の持つ要素と重ね合わせることで、相乗効果をねらったとその意図を説明している。

会場の使用期間の関係で、仮組みの段階と最終段階の2回足場を組んだ。児田英雄氏（足場職人）と2名の作業員により、およそ2時間程度で会場いっぱいの足場が設営、解体された。これが学生や職員に何ができるのかと期待感をいだかせる、準備過程をみせる展示になった。最終的に、天井の高さを十分に活かしながらも圧迫感がなく、来場者と資料が出会う場にふさわしい会場ができあがった。展示資料がふだんの生活の中で利用されてきたものだけに、博物館の展示にありがちなイメージを避け、よりリラックスした場のデザインを希望していたのだが、それが見事に実現されていた。また、試着室や収納スペースが的確に配置され、使い勝手もよかった。さらに、この構成に連動して、パネルを使用した文字解説は必要最小限にとどめる、説明事項はニュースレターに記入して会場に隣接したソファに腰掛けてよんでもらう、境界を置かず資料から人を遠ざける、といった方法が工夫された。

専門家との共同作業により、デザイン的にも機能的にも優れた会場になったといえよう。

4) ジュズダマ種子の配布

ジュズダマ属植物をまったく知らない来場者に対応するため、展示会場では、ジュズダマの種子を希望者に配布した。その種子は2004年11月に鹿児島市と薩摩川内市の自生地から、小田原祥子氏（ボランティア）と落合があらかじめ収集しておいたものを使用した。また、そのパッケージデザインは、博物館実習の受講者、今給黎彩氏、迫川晶世氏、薬師寺賢氏が考案した（本書別項参照）。

5) プレ展示

2005年8月4日から1ヶ月間、常設展示室1階のスペースを利用し、特別展プレ展示を行った。その目的は、特別展の広報をすることと、資料の展示方法を検討することにあつた。会議用テーブル一台とマネキン一体のちいさな展示ではあつたが、キャプションの書き方、資料の保護などと考える上で、実際に資料を公開してみたことの効果は大きかった。

(3) ボランティア活動

1) 基本姿勢

準備から開催期までの全期間にわたって、のべ21名の社会人や学生がボランティア活動をおこなった。その活動は次の二つのポイントを核に展開している。

- ① ボランティアは最初の入場者である。展示資料を準備しながらその意味や意義を理解し、勉強会で資料が収集される過程や、資料が作られた地域の様子を知ろう。
- ② ボランティア活動は学習の機会である。博物館のバックヤードに入って、学芸員がどんな仕事をするのか、その現場を学ぼう。スタッフになってお客様をきもちよく迎えよう。

2) 活動内容

ボランティアには、開催前1年半から半年前までに参加したコアボランティアと、開催直前から参加した会場係ボランティアがいる。コアボランティアの小田原祥子氏、上城芳恵氏は資料の補修とクリーニングを担当し、会場係の衣装を製作した。平田久子氏、伊藤知加氏、関美香子氏は資料の情報を登録した。伊藤氏は、会場で来場者に渡すパンフレット（本館ニュースレター11号）を編集した。

また、案内係ボランティアは、東南アジア大陸部のタイ系住民の衣装を着用し、会場で来場者への対応をおこなった。内容はパンフレットの配布、試着の手助けと撮影、そのメンバーは、以下の21名の方々であった。

伊藤知加氏、岩井雄二氏、宇野麻衣子氏、栄野洋子氏、小田原祥子氏、面高みさき氏、垣下愛氏、上城芳恵氏、神谷桜氏、久木田龍一氏、具志川徹氏、蔵之下正市氏、新村香織氏、関美香子氏、武田多美子氏、原田知也氏、東朋未氏、平田久子氏、古川久美子氏、丸田直子氏、山下さよ子氏、吉野彰斗氏。

案内係のていねいな対応は、来場者からたいへん好評であった。

3) ボランティアによる発案

今回の特別展では、ボランティア自身が発案した活動も数多くおこなわれた。代表的なものを紹介する。

① ポストカードの配布

市内のエスニックグッズショップ、雑貨屋、飲食店などに依頼し、店頭でポストカードを置いていただいた。このポストカードがフライヤーとなって、来場者の獲得に結びついた。

② 「気づいたことノート」による情報の共有

案内係として会場で活動中気づいたこと、対応に困ったこと、疑問に思ったことがあったら、ノートに書き記しておくようにした。他のメンバーがそれを読み、場合によってはアドバイスすることにより、案内の方法について情報を共有することができた。これは、展示会場の改善、接客マナー向上させ、トラブル防止にたいへん有効な手段であった。

記入された事柄の例

資料そのものについての質問（来歴、素材の種類など）

資料の手入れ方法についての質問（洗濯していいのか、虫がつかないのかなど）

会場の場所がわかりにくいという来場者からのクレーム

試着コーナーでの来場者の撮影、写真のプリント方法についての解説

資料の破損や日焼けを防ぐための方法の解説

資料の破損をまねきそうな来場者の行動とそれに対する対応策

試着室に衣服や荷物を入れておく場所がないことについての指摘

来場者からのお礼のメール、カード

③ 講習会の開催

資料を見るだけにとどまらず、ジュズダマの種子を使ったものづくりをはじめめるメンバーが現れた。それに刺激されたメンバーが、ビーズ細工に堪能な宇野麻衣子さんを講師に、10月12、13日の2日間、来場者とともにアクセサリーをつくる講習会を企画、開催するまでに発展した。

4) 活動のふりかえり

展示期間終了時に案内係ボランティア11名が、「活動のまとめのために」シートに、感想や気付いたことを記入し、活動全体をふりかえった。本特別展では、来場者への負担を減らすためあえてアンケートを実施しなかったが、このシートが、案内係を通して来場者から見た特別展評価を確認する手がかりになったと考えている。

(4) 展示の評価

展示期間中に以下の団体の研究会を鹿児島大学に誘致し、それぞれの参加者に特別展を見学いただいた。また、関連分野の研究者や学芸員も来場してくださった。これは、専門家が内容や展示の手法を評価する機会となった。

① 団体

10月21日 国立民族学博物館共同研究会「ドメスティケーションの民族生物学的研究」

代表者、山本紀夫（国立民族学博物館教授）と共同研究員12名

11月5日 科学研究費補助金「ミャンマー少数民族地域における生態利用と世帯戦略」

代表者、速水洋子（京都大学東南アジア研究所助教授）と研究分担者7名

11月13日 科学研究費特定領域資源人類学「自然資源の『認知と加工』」班

代表者、松井健（東京大学東洋文化研究所教授）と研究分担者10名

② 個人

クリスチャン・ダニエルス（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）

横山智（熊本大学文学部助教授）

斎藤玲子（北海道立北方民族博物館主任学芸員）

宇仁義和（宇仁自然歴史研究所学芸員）

餅原宣久（鹿児島県霧島アートの森学芸員）

藤井伸二（人間環境大学環境保全学部助教授）

山田充子（日本新薬山科植物資料館研究員）

(5) 関連イベントの企画、開催

特別展の展示コンセプトを多角的に表現し、あるいは資料が作られた背景や現地の事情を説明するため、つぎの3つの関連イベントを企画、開催した。それぞれの内容については、本誌別項を参照されたい。

第5回自然体験ツアー「これもつかえる・あれもつかえる—身体をつつむかたち」

講師：佐藤優香（国立歴史民俗博物館助手）

第9回市民講座「山地に暮らす人々—その歴史と文化」

講師：クリスチャン・ダニエルス（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）

ギャラリートーク「ティボリの音楽とダンス—フィリピン、ミンダナオ島から」

講師：長瀬アガリン（川口フィリピン人会）、石井正子（国立民族学博物館助手）

(6) 終了後の検証

特別展を企画、運営した経験を検証し、その過程を記録するための活動、特別展の成果を資料がつくられた地域へ返す試みを実施している。

① 巡回展示 Traveling museum in Oudomxai, Laos. Decorating with Plants - Job's tears materials from the world. 2006年3月15、16、17日、ラオス、ウドムサイ県

② 口頭発表 落合雪野（2006）「学ぶプロセスとしての展示—第5回特別展のこころみ」2006年6月23日 第1回博物科学会（北海道大学、札幌市）

③ 研究報告 落合雪野（2006）「植物からものへ、ものから資料へ—ジュズダマ・コレクションの成立と公開」『研究彙集特定領域研究「資源の分配と共有に関する人類学的複合領域の構築」自然資源の認知と加工研究班報告』17：4-12.



特別展 第5回「植物のビーズ -おしゃれ! ジュズダマー」

5. その他の活動

(1) 第2回 鹿児島大学子ども見学デー「探検！発見！大学の図書館と博物館」

2005年8月19日、第2回鹿児島大学子ども見学デー「探検！発見！大学の図書館と博物館」が開催された。この企画は附属図書館との共催により文部科学省生涯学習政策局生涯学習課実施の「子ども見学デー」の一環として開催され、大学の中の施設を子どもたちと保護者が一緒に見学することによりふれあいを深め、社会を広く知る夏休みの体験学習の機会にしようという企画である。広報チラシを附属図書館より近隣の4小学校へ配布し、博物館はマスコミ向け広報を担当した。

1) プログラムと内容（*附属図書館担当企画）

- 14：00 附属図書館集合
 14：15－14：30 *図書館見学
 14：30－15：15 *スタンプラリー大会
 15：15－16：00 *休憩、総合研究博物館常設展示室へ移動
 16：00－16：40 総合研究博物館常設展示室見学(展示室資料および「展示室クイズ」の配付)
 16：40－16：50 会場の移動
 16：50－17：10 大学院連合農学研究科棟にて全体総括
 アンケート用紙、参加記念グッズ等の配付
 参加の小学生、保護者によるアンケートへの記入
 大木公彦 総合研究博物館長 閉会の辞

大木が館内で展示の標本資料について解説をおこなった。

鹿児島大学構内から出土した考古資料や鹿児島大学の前身である鹿児島高等農林学校や第七高等学校で使用された機器やノートおよび日本一の産金量を誇る鹿児島県の金鉱石や化石について参加者に説明をおこなった。参加者は常設展示室に展示されている大学での研究のために集められた、いろいろな資料や機器についての説明に熱心に耳を傾けながら展示室を見学した。入館時にあらかじめ配付した「展示室クイズ」に回答しながら、館長の説明を聞いている小学生の姿も見受けられた。

博物館からは収蔵している資料の絵はがきを1枚ずつ差し上げた。

2) アンケートのまとめ

Q1 ご感想はいかがですか？

	図書館スタンプラリー	貴重書紹介	常設展示室見学
a. とても良い	25	16	23
b. 良い	8	14	5
c. どちらともいえない	0	1	2
d. つまらない	0	1	0
e. とてもつまらない	0	0	0
来年も参加したい？	はい 29	いいえ 0	どちらともいえない 4
参加者	小学生1－3年生 11	小学生4－6 12	保護者 10

Q2 思ったことや要望など

a. 小学生1-3年生

- ・たのしかった（2名）
- ・またきたいです（1名）
- ・はくぶつかんがとてまたのしかった、またきたいです（2名）

b. 小学生4-6年生

- ・わかりやすかった（3名）
- ・初めての参加だけど、とても楽しかった。またきたいです（4名）
- ・ちょっとつかれたけれど、とても楽しかった（1名）
- ・館内がきれいでした（1名）



第2回鹿児島大学子ども見学デー

(2) ギャラートーク「ティボリの音楽とダンスーフィリピン、ミンダナオ島からー」

このギャラリートークは、第5回特別展「植物のビーズーおしゃれ！ジュズダマ」の関連イベントとして、2005年10月18日に特別展会場で開催した。その目的は、展示資料のひとつ、フィリピン、ミンダナオ島で収集したベルトの使い方を、パフォーマンスによって再現することにあった。ティボリ人によって作られたこのベルトは、伝統的な民族衣装とともに女性が着用する。その姿で踊りを踊ると、ベルトにとりつけられたジュズダマ種子が揺れてぶつかり合い、独特の音をたてる。その音を実際に聞くことが、資料の理解に不可欠だと考えたのである。

さて、その踊りを披露してくださったのは長瀬アガリン氏（川口フィリピン人会）である。長瀬氏はミンダナオ島出身のフィリピン人女性で、ティボリ人の音楽や踊りに造詣が深い。また、伴奏とティボリ文化の解説を担当してくださったのは石井正子氏（国立民族学博物館助手・現、京都大学地域研究情報統合センター助手）である。石井氏は、ミンダナオ島のムスリム女性について長年研究を行ってきた。

長瀬氏と石井氏は、2005年落合が行ったミンダ



中央：長瀬アガリン氏 右：石井正子氏

ナオ島での現地調査を、通訳、コーディネーターとしてサポートして下さった経緯がある。したがって、資料収集の現場に立ち会うと同時に、展示を見学し、さらにギャラリートークにまで参加くださったのである。資料の製作地と会場をむすぶ、たてのつながりが公開できたことも、意味深いことであった。

おふたりのお話とパフォーマンスは12時から13時、13時から16時までの2回にわたっておこなわれた。これはのべ30人の見学者をも巻き込んだ、たいへんたのしいものとなった。また、見学者の積極的な反応にふれた長瀬氏からの申し出により、10月19日13時から14時まで、急遽あらたなギャラリートーク「腰衣マロンの100通りのつかいかた—東南アジアの服飾文化をめぐる」が追加された。参加者10名は全員腰衣（円筒形のスカート）の実物を使って、体をつつんだり、バッグやベビーキャリアをつくったりする体験をした。

このギャラリートークによって、資料を製作したティボリ人の文化について理解が深まったことはもちろん、人と人が交流する場として展示会場を活用することもできた。短時間のイベントを繰り返し開催するのははじめてのころみであったが、今後とも開催が検討されてよい方法といえるであろう。

6 常設展示室

1. 入館者数（総計・月別・曜日別）

2005年度の総入館者数は2,030人であった。開館年度である昨年度が、5月末よりの開館で2,189人の入館者数であったことを考えると、開館2年目は極端な入館者の減少はみられなかった。月別の入館者数は、7月・10月・11月が多く、12月～3月が少ない。

年度初めの4月～6月は、鹿児島大学の新生の来館、授業での利用がよくみられ、8月・9月は大学の夏季休業の影響を受け、入館者数が減少している。7月・10月は、大学の授業での利用や団体の見学が多かったことや、11月は大学祭のため、昨年度同様、大学祭期間中の日曜日に臨時開館したことにより、多くの入館者が訪れた。12月～3月は、冬季休業、後期授業終了などに伴い、学生の入館も減り、昨年と同様、冬季の入館者数は少なかった。特に1月は入館者が0人の日が数日あった。

表1 常設展示室 月別入館者数

2005年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数 (人)	167	100	187	311	106	94	335	459	76	50	64	81	2030
開館日数	20	17	22	20	20	19	21	20	16	20	19	22	236

曜日別では金曜日が最も多く、次いで水曜日、土曜日が多かった。これは団体見学者数により曜日差が出ており、今年度は特に金曜日に団体見学が多かったためである。また、11月の土曜日は、大学祭のため入館者数が多く、大学祭期間中の土曜日は、147名の入館者数があった。

表2 常設展示室 曜日別入館者数

2005年度

	火	水	木	金	土
4月	29	16	28	82	8
5月	26	19	17	11	25
6月	44	50	14	47	32
7月	35	64	70	108	34
8月	15	10	32	44	5
9月	5	11	8	64	6
10月	18	114	50	128	25
11月	59	31	17	18	160
12月	23	8	10	20	15
1月	31	0	0	8	11
2月	10	13	15	18	8
3月	10	12	22	20	15
合計(人)	305	348	283	568	344

※ この他に、日・月曜日の特別開館では、計182名の入館があった。

2. 利用・活用状況

今年度、団体入館者数は817名、個別入館者数は1213名であった。大学生や教職員など学内関係者をはじめ、学外からも多くの入館者があった。鹿児島県外からでは、鹿児島大学に学会、所要のため訪問される他大学の方が、その折に常設展示室を見学される場合が多い。

団体入館者は、6月・7月、10月が特に多かった。これは高等学校PTAの研修での利用がこれらの月に集中したためである。団体利用では、大学の授業や講座での利用、8月には、博物館実習の学生を受け入れ、常設展示室で館長によるレクチャーが行われた。また、大学付属図書館との共催イベント「鹿児島大学子ども見学デー」が開催され、多くの親子連れが訪れた。

団体入館者

鹿児島大学関係

〔授業〕

法文学部 「人文科学基礎」「考古学概論」

理学部 「理科教材研究法Ⅱ」

教育学部 「博物館実習事前指導」

工学部 「フレッシュマンセミナー」

共通教育 「博物館へのいざない」「博物館学」

附属小学校 複式学級Ⅱ

〔公開講座・イベント〕

鹿児島大学図書館・総合研究博物館共催 第2回鹿児島大学子ども見学デー「発見！探検！大学の図書館と博物館」

鹿児島大学公開講座「大学でおもいきりあそぼう」

〔その他団体見学〕

鹿児島地区大学学生部連絡協議会

鹿児島大学付属図書館職員

鹿児島大学総合研究博物館学外協力者懇談会

高等学校・小学校PTA研修

屋久島高校PTA 中央高校PTA 志布志高校PTA 熊本玉名高校PTA

指宿高校PTA 熊本西高校PTA 加治木高校PTA 大口高校PTA

玉龍高校PTA さつま中央高校PTA 田上小学校PTA

その他

こどもエコクラブ・シャイン 北九州予備校 荒田小学校2年生

重富中家庭教育学級 かごしま水族館ボランティア 鹿児島市消費生活研究会

3. 館内環境

昨年度同様、4台の空調機を使用して室内環境を整えているが、昭和初期の鉄筋コンクリートの建物を利用しているため、外気に左右されやすく、夏場は気温が上昇し、冬場は下降する。湿度も梅雨時や秋の長雨では高湿度となり、また、雨天が続くと、特に2階では湿度の上昇がすぐにみられ、その後晴天となってもなかなか下がらない。湿度を下げるため空調を強くかけても効果は薄い。9月から11月にかけては台風の影響もあり、下記に示す温湿度のグラフのとおり高湿度となっている。年間の温湿度の動きは、若干気温が昨年度より低い、基本的に昨年度と変わらない。

今年度は、台風によって2階北東側の壁の一部から展示室内に雨漏りがみられた。幸いにして展示資料が置かれていない壁の部分からの漏水だったので、展示には被害はなかった。外壁のひび等から雨漏りとみられ、部分の原因は特定できなかったが、外壁の吹き付け工事などの補修を行った。また、入口のエントランスでも、強い雨の吹き込みからドアの接合付近などから漏水がしばしば見られ、何度か展示室の入口付近にも水が溜まることがあったため、入口ドアの外側の下方に鉄板の柵を置き、ドアの隙間から雨の浸入を防ぎ、入口部分の屋根の補修工事も行った。

表3 常設展示室 温湿度

2005年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース温度(℃)	20.2	22.2	24.1	27.2	25.1	27.3	23.3	18.5	14.9	13.7	16.5	16.8	20.8
湿度(%)	65.4	69.2	73.8	60.5	57.5	65.4	69.0	71.1	64.9	64.6	64.3	63.8	65.8
2階ケース温度(℃)	19.4	22.6	24.4	25.9	25.3	24.3	22.2	18.9	15.1	16.3	17.3	17.4	20.8
湿度(%)	71.4	76.8	80.3	69.5	63.4	73.8	79.3	76.2	64.3	62.8	61.3	65.7	70.4

4. アンケート

入館者に比べアンケートの回答者は、約10人に1人の割合だが、概ね入場者の感想として博物館運営の参考にすべき貴重な意見、要望が寄せられている。年代別では、19歳以下から20歳代が全体の約6割を占めた。居住地、所属では、昨年度は大学関係者が半数近く占め最も多かったが、今年度は鹿児島市内からの館者が半数を占め、大学関係者が約3割ほどであった。展示室を知った経緯については、人にすすめられた、その他の項目が大部分を占めた。その他の理由では、「たまたま通りがかった」「歩いていて見つけた」など、偶然に見つけて入館したという意見が多くみられ、要望にも、「知らなかったので、常設展示室を宣伝してほしい」「多くの人にPRしてほしい」といった意見が多く寄せられた。

感想では、展示室の雰囲気がよく、展示に対しても興味、関心を持ったことが記され、特に手回し計算機、化石など、触れる展示がうれしかったと好評であった。また、定期的な展示解説の時間は設けていないが、依頼があれば教員が極力、展示解説を団体・個人問わず行っていることから、解説へのお礼も多く、より展示に対して深く理解していただき、大学博物館自体の重要性も伝えることができた。

入館者の意見では、化石、鉱石以外のさまざまな分野の展示、展示数の増加、企画展の開催、鹿児島大学ならではの企画展など、展示に対する要望があった。また、上述したように広報への意見が多く、常設展示室のPRを求められた。建物や設備については、場所がわかりにくい、狭いという意見がみられた。全体的な感想では、たいへんよい、よいの回答が、ほとんどを占めている。

受付でも「偶然通りがかり、狭く小さな展示室なので、あまり期待せずに来館したが、意外と見応えがあり、内容もしっかりしていた」との声をかけていただく場合が多い。そのためもっと他の人にも、知ってもらいたいと嬉しいご意見をいただいている。

アンケート集計結果（グラフには無回答を含まず）

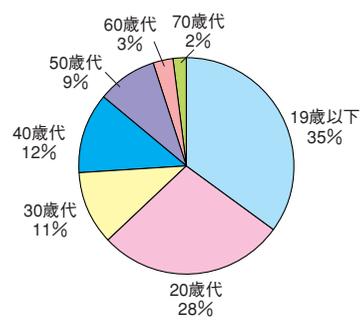
1) 記入者

200名 男 99人 女101人

2) 年齢

19歳以下	66名
20歳代	54名
30歳代	22名
40歳代	23名
50歳代	18名
60歳代	5名
70歳代	4名
無回答	8名

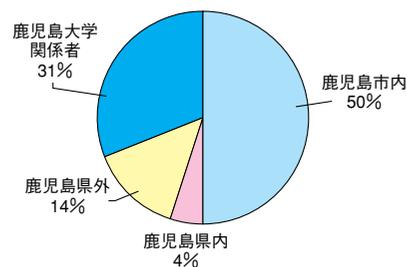
年齢別入館者



3) どこから来たのか

鹿児島市内	101名
鹿児島県内	9名
鹿児島県外	27名
鹿児島大学関係者	62名
無回答	1名

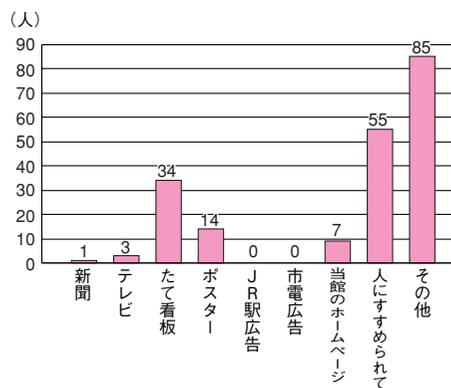
来館者居住地



4) 常設展示室を知った経緯

新聞	1名
テレビ	3名
たて看板	34名
ポスター	14名
JR駅広告	0名
市電広告	0名
ホームページ	7名
人にすすめられて	55名
その他	85名

常設展示室を知った経緯



(・偶然、通りがかった・歩いていて見つけた)

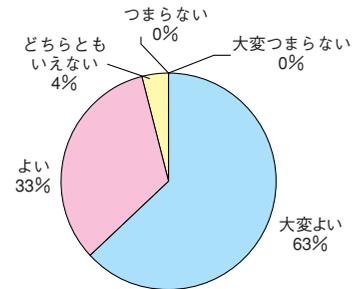
・公開講座で知った)

無回答 1名

5) 感想

大変よい	119名
よい	62名
どちらともいえない	7名
つまらない	0名
大変つまらない	0名
無回答	12名

感想



6) 感想・要望

全体的な感想

- ・テーマ別にたいへん集約された資料が見やすく展示されており、あらためて勉強になりました。地元ならではのデータで、地域の方も身近に感じられるのではないかと思います。
- ・本日はありがとうございました。博物館の見学は初めてでしたが、色々と説明して頂いて楽しく学べました。土器や化石を見ながら古代に思いをはせ、ロマンを感じました。建物もレトロでいいですね。初めて入ったのですが、とてもきれいで驚きました。内容も興味深く、身近な場所からの発掘品など、歴史を感じました。
- ・初めてここに来たのだが、これ程まで充実しているとは正直思ってみなかった。リラックスして、展示物を見ることができた。
- ・市民、県民と共に発展していく博物館になればよいと思います。そして、鹿児島にもう1つの名所になれば良いと思います。本日は貴重な物を発見することができました。
- ・大変面白く見せていただきました。ありがとうございました。
- ・大学内にこんなしっかりとした博物館があるなんて正直驚いた。
- ・若い頃、毎日通学のために通っていた道です。久しぶりに訪れてなつかしく思いました。整理された館内に色々の資料が展示されていてびっくりでした。
- ・いつまでも大切に保管されます事を望みます。
- ・落ち着いた雰囲気良かった。
- ・展示が変わったときに来てみたいです。無料なところがヨーロッパっぽいと思いました。
- ・勉強になりました。参考になりました。
- ・数十年住んでいて、こんなにも魅力的な環境にめぐまれていたのかと改めて認識させられました。
- ・これから衣食住など生活と学問のかけ橋をして下さい。鹿児島っていいなあ今日は思いました。
- ・鹿児島大学の長くすばらしい歴史を感じられました。
- ・楽しむことができました。これからもまた見学に来たいと思っています。
- ・身近な場所の再発見となりました。
- ・とても良い博物館だと思います
- ・とても興味深くみせていただきました。
- ・また、ここに来て勉強したいです。内容がしっかりしていて勉強になった。
- ・よく整理されていて気持ちよかったです。

解説について

- ・展示物の解説をしていただくと、1つの展示物の存在する意味の大きさを感じることができます。お忙しい所私達のために解説していただきましてありがとうございました。
- ・説明をして頂き、展示物の理解が深まりました。ありがとうございました。友人にも紹介してまた、伺いたいと思います。
- ・先生方に説明していただきながらの閲覧はとても分かり易く理解が深まり楽しい時間でした。係りの人が、

資料だけでは判らないことを教えてくれたので、とても興味深かったです。

- ・常設展示室から見える自然もとても美しく、古代からの歴史をしのばせる雰囲気もとてもよかったです。また、お忙しいなか、とてもわかりやすく楽しくご説明していただきました。
- ・話がとても楽しかったです。鹿児島県の歴史や遺跡のこと勉強になりました。
- ・解説付きの見学を設定していただきありがとうございました。見方が変わり楽しく拝見させていただきました。
- ・説明が面白かった。研究室にももっと多くの資料が埋もれていそう。テーマを決めて出品して見せて頂きたい。
- ・説明がわかりやすく、落ち着いた雰囲気でもとても充実しました。
- ・地表の説明を聞きました。わかりやすく説明していただきました。
- ・2階で説明を受けて、大変勉強になりました。知らないことが多いのに気づかされ驚きの連続でした。こんな話はめったに聞くことがないので嬉しいでした。
- ・解説していただき有難うございました。
- ・スタッフ方の説明が興味深く非常に面白かった。
- ・案内をしていただけて、とてもわかりやすかった。
- ・係りの人が親切に案内してくれてよかったです。館内もきれいにされていて、とても快適に見学できました。

展示全般について

- ・展示物がきれいでわかりやすかったです。
- ・展示の量は、気負わず見るには丁度良いと思います。(専門的な人には物足りないか)
- ・展示が見やすい。
- ・展示が丁寧にしてあり、とてもわかりやすいでした。友人にも紹介したいと思います。
- ・展示の仕方がすごくよい。テレビで見て、想像していたより良くて、感動しました。案内して下さる方も親切でした。
- ・展示物がきれいでわかりやすかったです。

1階の展示について

- ・大学内や県内各地など身近な場所で化石や石器、土器などが発掘されていることに驚いた。実際使用できる展示もよかった。
- ・大学内が昔、集落だったことは初めて知った。
- ・遺跡や理科用の機器が楽しく見られた。説明もあり使い方や年代がよく分かった。大学構内に大昔人々が住んでいたとはじめて知り、大変びっくりし興味をもった。
- ・土器の保存のよさに驚きました。触れても丈夫なものなどがあり、より楽しめました。自分たちが毎日歩いている下に遺跡があることをはじめて知りました。
- ・鹿大が元々遺跡のあった所だったということが驚きでした。しかもいっぱい色々なものもでてきていて、おもしろかったです。また、いろいろ詳しく説明していただいて、ただ見るだけでは分からないようなことも知ることができて良かったです。それで、鹿児島はもったいないことをしたなと思いました。
- ・1階の展示内容が、鹿児島県の歴史を時代を積み重ねるように順を追って見学でき、とても貴重な埋蔵文化財だと思いました。
- ・地元での出土品が多くて驚いた。
- ・自分の通った大学から縄文時代の石器が出土されているとは知らなかった。自分の先祖につながる人たちが生活していたことを初めて意識した。昔の海や川の流れ方を初めて知った。どこの地盤が安全か教えてもらって、これからどこに住もう?と考えていたので参考にさせていただきます。
- ・大学の地底に多くのものがあったことがわかりました。
- ・校内遺跡が思ったより大規模で出土したものも大量で驚いた。
- ・まさか鹿児島大学の中で出土した物とは思いませんでした。普段なかなか見ることのできないようなものを見ることができ、大変良い経験になった。
- ・鹿児島大学の七高時代の写真や昔使用されていた電算機など初めて目にしたので面白かったです。
- ・手回し計算機大好き。
- ・古い電卓や実験道具が見られてよかった。

- ・昔の機器が置かれているのは、大変興味深かった。コンピューターを扱う会社に居たこともあり、オリベッティ製機器と出会ったのはおどろきです。
- ・発掘調査がおこなわれてきたと聞いていたので、土器とかばかりあるのだろうと思っていたが、顕微鏡とかも展示してあったので驚きました。
- ・ライカの双眼実体顕微鏡に感激しました。
- ・昔使っていたタイプライターや自動計算機があるのがすごい。

2階の展示について

- ・鹿児島の金鉱床の豊かさにびっくりしました。鉱物の精錬過程の様子を知りたいと思いました。
- ・鹿児島の金は世界一なのに、鉱石の形で実物を見たり説明を目にするのできる施設はありませんでした。これまで収集して来られたものを入れかえる展示内容の変更だけでも様々な分野が大学にありますので、利用の可能性は無限ですね。また来たいと思います。
- ・鹿大の歴史や鹿児島の環境を知ることができ、とても勉強になりました。私は岩石に興味があるので、2階の日本全国の石に感動しました。鹿大にはこんなに素晴らしい資料があるので守っていかねばなあと思いました。
- ・いろんな石があっっておもしろかった。
- ・ここ鹿児島大学総合研究博物館でいん石はどこで手に入れたものか不思議。
- ・サメの歯やアンモナイトの化石があっっていい。
- ・キャンパス内でとれた化石ということで、ここまでとれるものかと驚かされました。化石などを通じて昔のことを学んでみるのもおもしろそうだと思います。
- ・見たこともない化石や物があっってとてもびっくりしました。バリアフリーもものすごいと思いました。
- ・すばらしい学術資料が収集・保存されていたのにびっくり感動しました。先生方がご自身で作られたという全国の金の分布モデル、鹿児島の地形（層）の分布モデルも分かりやすく、とても興味深かったです。
- ・化石とか土器とかいっぱいあって楽しかったです。
- ・教科書で知った土器や化石などが実際に展示されており感激しました。

特別展プレ展示について

- ・林園を歩いていたらたまたま通りかかってこの博物館の存在を知りました。常設展も面白いし、ジュズダマは今ではなかなか見かけないので、興味をもつ人はたくさんいると思います。もっとこの施設の存在をアピールするべきではないでしょうか？

さわれる展示について

- ・さわれるのがとてもよかった。
- ・昔の計算機に触れるようになっていたのが良かった。昔の手回し計算機が今もまだ使えるのが面白かったです。
- ・計算機をせっかくさわれるなら使い方も分かりやすいところにかいて置いた方がうれしい。
- ・手にとって見ることができる資料があるというのは身近に感じられるので良いと思います。
- ・ストロマトライトに触ってみました。
- ・機器や土器、化石に実際に触れることができる点が良いと思う。
- ・計算機、土器、化石など実際触れることができ、本当によい体験でした。
- ・実物にふれるのがいいと思った。化石とか20年生きていて初めてさわった。
- ・実際に化石に触れたり、展示物をさわれるのは、大変よかったです。
- ・化石や土器を直接手に触れることができ、とても良い経験をしました。
- ・化石を実際に触れることができ感動しました。
- ・実際に手に触れることのできるものがいくつかあり、よかったです。また、展示内容が変わったら来たいと思います。
- ・実際に触れることができるのも、とっても良いと思う。
- ・手に触れて観察できる展示の仕方や立体模型、写真など、とても分かりやすかったです。
- ・手でふれることのできる展示が良い。
- ・貴重な物を実際に手で触れることができ子供達も大喜びでした。
- ・実物が間近に見られるだけでなく、手にとってみられる施設なので大変面白かったです。

- ・機械などに、もっと触れてみたいと思うので、そういうコーナーを設けてほしい。
- ・触れられるものがあったり、地図で位置を示したり、すぐわかりやすかったです。
- ・直接手で触れても良いという資料が展示されていることに驚きました。感動でした。
- ・所々に実際に手にとって見られる展示物も在り、面白かったと思います。また、1Fは「人工もの」、2Fは「自然もの」とコンセプトがはっきりと別れており、見やすかったと思います。
- ・体験型の展示が多く、子供も楽しめそうだった。

展示についての意見・要望

- ・成川式土器と日本一般的な土器を並べて展示すれば、比較ができて良いと思います。
- ・地層のはぎ取り断面の展示位置は、地質（2F）のコーナーの方が良いのではないのでしょうか？
- ・今後、充実していかれると思いますが、鉱物のところで、たとえば、きれいな顕微鏡写真のパネルがあったり、実際偏光顕微鏡が置いてあるのもっと面白いと思います。ルーペも。
- ・鹿児島県の動植物についての説明があってもよいかと思いました。金鉱床の説明がなかった。日本列島での場所と岩石、産出量などが非常にわかりやすかった。
- ・限られた空間内でありながら、十分楽しめる展示場だと思う。しかし、異なる種類の火山岩が、どのようにつくられるかも、順序良く絵で説明するコーナーがあると、私のように知識のない者でも理解しやすいと思う。石にさわれるのは、めったにない機会なので楽しめた。
- ・鉱床の一覧模型の日本地図はランドサットより地質図のほうが分かりやすいような気がしました。（展示レベルを考えた場合）
- ・恐竜がみたいので置いてください。
- ・化石のところに生物などの当時の想像図などあった方が分かりやすいと思う。
- ・鹿児島中央部の沖積層基底面の等高線の模型について、アクリル板に略図が描かれているだけなので、何か淋しいと思います。現地地形図を半透明シートにして、アクリル板に貼り付けてみてはいかがでしょうか？多少なりとも防災意識の向上に役に立つかもしれません。（GIS風にしてみれば？）
- ・2階の展示物と鹿大とのつながりがあまりわからない。またその他の展示物が現在の鹿大の活躍（研究・調査）にどうつながっているのかが、よく見えない。
- ・第四紀、海成層、沖積層…表現がばらばらしているような気がします。一般の方には、用語の違いが理解できないのではないのでしょうか？
- ・鹿児島といえば霧島や桜島などの火山が重要だと思うので、ディスプレイを作ってもよいのではと感じました。
- ・研究発表会などで使われたポスターセッション用のポスターを壁に貼れたら、少し賑やかになるかも知れません。鹿大で研究されているものなど、利用されてもいいのではないかと思います。

他の展示・企画の要望

- ・鹿児島であることのアピール、比較があるとわかりやすい。
- ・防災・温泉などの応用地質的なトピックスがあるとうれしい。
- ・埋蔵物以外の学術分野の展示があればなおよい。
- ・絵画等の芸術博もやって欲しいと思った。
- ・幕末関係の資料も見れたら良かったと思います。ご丁寧な対応ありがとうございました。
- ・動物の化石をもっと見たいです。
- ・高価な物ばかりで、化石などなかなか増やせないとは思いますが、これからも増やして欲しいと願っています。また、ぜひ、来たいと思います。楽しかったです。
- ・貴重な本、論文、資料などがあるといいと思いました。
- ・今後より充実して、初島コレクション等の公開をしていただきたい。
- ・岩石・化石・土器など、いろいろありましたが植物、動物系のもも置いてあると、もっと楽しめるような気がします。もし、置けるのなら展示して頂けたらと思います。
- ・いつか、貴重な植物標本を見せていただきたいです。
- ・勉強会などがあるとうれしいです。また、人文系の展示もあるといいなあと感じました。
- ・今現在、鹿大ではどのような研究が行われているのかも展示して欲しい。
- ・鹿児島大学ならではの展示内容をもっと全面に出して、よりよいmuseumを。

- ・いっその事、他大学の各学部に眠っている資料も（同時代のものと比較するため）収集しては如何でしょうか。
- ・お話にも出ましたが、獣医学科の骨の標本も希望します。
- ・科学のことをもっと調べたい。
- ・企画展示等をやる予定はないのですか？
- ・準備等大変だとは思いますが、企画展をできるだけ多く開いていただけると良いなあと思います。
- ・展示内容の分野が偏りすぎだとも思います。総合をめざして下さい。
- ・主に、土器や化石の展示であることが分かるような名称を入れたほうがベター。総合研究博物館だともっといろいろ展示されているように思います。
- ・博物館のコンセプトがいまいちよくわからなかった。
- ・子どもたち（小・中・高）に学習させる方法を検討されてはどうでしょうか？

展示の数、キャプションについて

- ・展示の数がちょうど良いと思います。説明のキャプションも多くないためモノをじっくり見ることができました。以前（昨年）来たときと変わらないようでしたが、展示は定期的に変えないのですか？
- ・展示についての説明がもう少し詳しく欲しい。
- ・英語や韓国語での説明をしてみても？
- ・常設のみではなく、他にも少し展示があれば良かった。
- ・展示物を増やす。もう少し展示品が増えるとあきないと思う。今のままでは何度も足をはこぶ人は少ないと思う。しかし、講演会などがあるそうなので、そちらにも参加してみたい。
- ・違う展示も見てみたい。

広報について

- ・もっと多くの人に見ていただきたいです。多くの人に見学して欲しい。もっといろいろな人にみてもらえるといいと思う。
- ・もっと多くのかたにこの素晴らしさを体験していただけたら…と思います。
- ・展示室のアピールをもっとしてください。この建物の価値をもう少しアピールしてほしい。
- ・ほとんどの人が知らないと思うので、もっと宣伝したらよいと思いました。かなり立派な博物館だと思ったので、あまり人がいないのはもったいないような気がします。見てすぐ楽しめたので。
- ・通りすがりで展示室を知ったので、もう少しPRしてもよいのではないかな。
- ・もう少し市民の方に知られればまだ多数の人々が見学に来ると思う。そして展示物を少しずつ増やしていけば良いと思う。
- ・周りの友人達にもお知らせしたいと思います。
- ・学生諸君が沢山見学に来て、鹿児島をよく知るようにご指導ください。
- ・教育学部・学内でも、もっとPRしてほしいです。
- ・広報をもっとして、学生に存在を知ってもらったら、けっこう人が来ると思う。雰囲気も落ち着いていてなかなかいいところだと思う。
- ・小学生高学年、中学生等来場するように、学校宛にアピールしたらよいと思う（教室での授業よりずっと為になると思う）。
- ・他の学内の学生にもっと来てもらうようにアピールするべき。
- ・これから発展していく博物館だと思うので、県内の小中学校にどんどんアピールして欲しいと思う。
- ・小学生等夏休みの研究や総合的な学習等で参考になるものばかりでした。もっと博物館が活用されるよう、学校などに知っていただけたらと思いました。
- ・催し事がいつあるのか等がもっと広告されたらいいなと思います。
- ・特別展があるときなどは、各掲示板で告知してより多くの人目に触れるようにしたら良いと思います。
- ・自然体験ツアー、市民講座の日時が知りたいです。

施設、場所等について

- ・ガラスケースがとてもきれいで展示品がとても良く見えました。
- ・思ったより、きれいな施設でした。館内は、とてもきれいだった。
- ・どこにあるのかわかりにくい。森の中にあるので、入口がわかりにくかったです。

- ・目立たない場所にあるため気付きにくい。
- ・大学の前を通った人がふと立ち寄るような工夫（看板等）があればいいと思います（大学前の通り）。
- ・少々手狭な気がした。もっと規模が大きくなるとさらにいいですね。天井が低い。
- ・薬品のにおいが気になります。少々においが気になります。
- ・照明のあて方で展示資料に影ができてみにくいものがありました。実物の資料が多いのでリアルに見学することができました。
- ・もっとライトを明るくした方がいいと思いました。
- ・もう少し、休憩するための椅子があれば、もっといいのではないかと思います。

その他

- ・演習林の整備が必要です。
- ・隣の植物園とセットにして学習資料となるようにしてください。植物園の整備が充分でないように思われます。

小学生の感想、意見

- ・おもしろかった。たのしかった。
- ・とてもいい経験になった。とても、いいのがあって、すごい。とてもよかった。
- ・いろんなものがあってよかった。
- ・いろんな古い物があってすごく勉強になった。
- ・ちゃんと受付の人が説明してくれてわかりやすかった。
- ・いまどきに古いものをかざってあるなんて、すごい。
- ・わかりやすくてとてもよかったです。
- ・いっぱいあってたのしい。すごくたくさんそろえている。
- ・しらないことがわかった。しらべることがわかった。
- ・むかしの物があってよかった。昔のどうぐがいっぱい。むかしのものがのこっている。むかしのものがたくさんある。
- ・むかしの物やがんせき、かいなどがたくさんある。
- ・むかしのものがいっぱいみれたから、とてもすばらしい。
- ・アンモナイトをはじめて見て感動した。化石などもあって、すごいと思いました。いろいろなものがあってよかった。
- ・化石などめったに見ないから、いい経験だった。
- ・2階の石がたくさんあるところがとてもきれいでよい。
- ・鹿児島図が、すごくおもしろい。
- ・2階のたくさん石があるところをふたをしたほうがよい。
- ・とても楽しかった。化石があった。
- ・恐竜の化石を展示してほしい。
- ・化石がこんなものとはしらなかった。
- ・いろんなものをさわって、とても楽しかったし、わかりやすかった。
- ・体験コーナーなどをつくったらいいと思う。
- ・良いエアコンで見学しやすかった。もっと外部にPR！

5. ボランティア活動

常設展示室では、学生、一般からボランティアを募り、常時、展示室でのパンフレット配布、展示監視、入館者誘導、解説補助などの作業を依頼している。今年度は延べ38人のボランティアスタッフが活動した。昨年度、開館当初は、時間ごとに事前に登録し、ボランティア活動をしていただいたが、後半からは、活動できる時間に自由に参加してもらう形になり、今年度もボランティアの都合の良い時間があれば、事前登録なしに来てもらい、活動を行うことになった。その

ため年間通じて入館者が多く見込まれる11月の大学祭や団体予約、諸行事では、ボランティアの積極的な参加を呼びかけた。

しかし、今年度は、常設展示室でのボランティア活動は開館年度に比べ減少した。これは、展示案内のボランティア希望者の登録が減り、通常の開館時の展示ボランティアが少なくなったためである。また、イベントの際には登録者の都合が悪く、ボランティアが集まらなかった。

展示案内に対して、どう説明したら良いのか不安だという声もあったので、閉館後、常設展示室内で展示を観ながら、3回にわたり館長によるボランティア学習会が開かれた。その後も大学博物館の意義などさまざまなテーマでボランティア学習会が続けられた。

6. 課題

開館2年目となったが、極端な入館者数の減少はみられず、入館者も学内関係者だけでなく、学外から多くの来館があった。学外にも少しずつ常設展示室が知られていったと思われる。また、入試課、国際協力課など学内の各部局から、大学訪問者を常設展示室に案内されることも多かった。しかし、まだまだ知名度は低く、アンケートでもみられよう広報活動が必要である。大学に博物館があり、どなたでも観ることができることを、まず、知っていただきたい。もちろん当然、展示の充実、来館者への解説、イベントの開催など常設展示室の質の向上を図っていくことも重要である。

常設展示室は、展示スペースが狭く、室内環境も展示室として決して恵まれたものではないが、多くの人に展示資料を通して、大学での教育、研究の一端にふれる機会を提供している。入館者自身がさらに興味をもった分野を探求し、博物館との対話のなかで学習することも可能である。常設展示は、ややもすれば固定的で地味な印象を受けがちだが、開館時はいつでもだれにでも展示資料が公開され、博物館利用が容易にできる場である。入館者と博物館がお互いに発展できるよう常設展示室の活用方法を模索していきたい。

7 地域貢献事業「鹿児島フィールドミュージアム」

2005年度の「鹿児島フィールドミュージアム」の事業は、自治体や個人からの要請に応じ、講演、現地説明会、文化財の現地調査や評価などを行った。

5月に、フィールドミュージアムのノードとして支援を行い実現した南種子町河内の「化石公園」において、連携自治体の南種子町主催で、鹿児島大学総合研究博物館の大木の説明のもと、京都大学、山口大学、九州大学、福岡教育大学、熊本大学、鹿児島大学の教員・学生と南種子町の郷土講座受講生が一緒になって地層と化石の勉強会を行った。この現地説明会は郷土講座第1回「河内化石を学ぼう」の一環として開かれたもので、郷土講座受講生以外にも小中高の生徒や近所の方も飛び入りで参加し盛り上がった。

8月に、加世田市の奥山（六堂会）古墳の現地説明会を行った。この現地説明会は、鹿児島大学総合研究博物館が進めた発掘調査中に行ったもので、多くの考古学ファンが訪れた。薩摩半島南部で唯一の石棺墓を見ながら、総合研究博物館の橋本の説明を聞いた参加者は、古代のロマンに満足した様子だった。

また、同8月に、総合研究博物館の大木が県文化財の現地調査に参加指導し、9月には鹿児島市の埋蔵文化財地質分析の指導を行った。3月には10の連携自治体とのフィールドミュージアム会議（第5回ノード連絡会議）を開催し、7つの自治体が出席してフィールドミュージアム事業のあり方について話し合った。この会では、本事業を継続するとともに多くの自治体の協力を得て、鹿児島の自然、文化財、施設の評価、情報発信を進めることを確認した。自治体との連携の1つとして鹿児島市河頭浄水場内の地層案内板の文を作成している（大木）。

この他、総合研究博物館の企画でノードの開発と展示を行い、県霧島アートの森で第5回自然体験ツアー「これもつかえる・あれもつかえる - 身体をつつむかたち」を開催した（落合）。

5月には鹿児島市アリーナで開催された「伊能忠敬大図展」を後援し、明治に作成された日本地質図（英文）を出品した。

フィールドミュージアム事業に関する出版は、連携自治体の郡山町（現 鹿児島市）の郷土史（大木）、学外協力研究者の稲田 博氏著で大木が監修した総合研究博物館研究報告No. 2『鹿児島シラス百景』、鹿児島観光・文化検定公式テキストブック『かごしま検定』の第1章の自然（大木）があり、フィールドミュージアムのノードである自然や文化財の保護の重要性についてアピールした。

鹿児島フィールドミュージアムのノードに関する講演は、担当の大木を中心に、かごしま県民大学 平成17年度 ふるさと再発見「かごしま学舎」で2回、錦江湾高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業「錦江湾学」で2回、その他に鹿児島県不動産鑑定士協会研修会、NPOまちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会主催の公開講座、全国小学校理科研究大会公開授業、西日本天神文化サークル主催の「一日大学福岡塾」、南薩地域保健所研修会、かごしま市民環境会議環境講座、阿久根郷土史会研修会、鹿児島経済同友会新年例会などで行った。

2005年度のプロジェクト経費を確保することが出来なかったために、総合研究博物館のスタッフ、学外協力研究者、ボランティアの努力によってプロジェクトを進めてきたが、ホームページの更新、内容の充実も含め十分な成果が挙げられなかった。



奥山（六堂会）古墳発掘調査



奥山（六堂会）古墳現地説明会

8 教育活動

1. 共通教育「博物館へのいざない」

2004年度から総合研究博物館専任教員で共通教育を担当している。この講義は学生を中心に大学博物館の存在をアピールし、その必要性や活動の一端を知ってもらう機会とする。講義は前期の15回で、教員3名で5回づつを分担した。以下にシラバスを転載する。

シラバス

この講義は、博物館、とくに大学博物館への関心と理解を深め、学習や研究において有効に活用するための手がかりを提供することを目的とします。

国内外の数多くの博物館では、さまざまなモノが集められ研究の対象となり、また展示などを通して公開されています。なかでも、



講義風景

教育・研究の資料やその過程を蓄積する大学博物館は多くの諸外国においては大学に必須の施設と位置づけられていますが、日本ではその意義への認識が低く、きわめて数が限られています。

鹿児島大学総合研究博物館は日本では8つしかない国立大学の総合博物館の一つです。この講義では大学博物館の特徴や業務との関わりを通して、標本・資料や文化財の意義、博物館の必要性、役割、現状などについて解説します。さらに総合研究博物館各教員の研究分野の標本資料の収集・保存・利用などについて具体的な事例から、その意義やおもしろさを説明します。

講義は3人の総合研究博物館専任教員が交替で行います。講師によって授業法は異なりますが、プリント・OHP・スライドなどを使って説明します。

【講義の目的】

博物館、とくに大学博物館への関心と理解を深める。博物館の意義と役割について理解する。学習や研究における博物館の活用について理解を深める。

【大木公彦（1～5）】

- 1) 序 博物館へのいざない
- 2) 日本の博物館・外国の博物館
- 3) 標本の意義 地球科学を例にして(1)
- 4) 標本の意義 地球科学を例にして(2)
- 5) 大学博物館の役割

【落合雪野（6～10）】

- 6) 有用植物学ことはじめ—毎日の暮らしから考えよう
- 7) 有用植物に関するものと情報の収集(1)現地調査
- 8) 有用植物に関するものと情報の収集(2)植物園
- 9) 有用植物に関するものと情報の収集(3)植物標本とハーバリウム
- 10) 鹿児島の食文化と植物

【橋本達也（11～15）】

- 11) 博物館学的に博物館を考える—博物館の役割と歴史—
- 12) モノから歴史を考える—考古学の考え方—
- 13) モノづくりの日本史—考古学の資料—
- 14) 文化財を考える—その位置づけ・保存・活用—
- 15) 考古学と博物館

【評価】

レポートによって、講義内容の理解を基準とし、いかに関心をもって学習に取り組んだかも評価します。レポートは各教員ごとに課題を出し、個別に採点した上で平均化して評価します。

2. 博物館実習

鹿児島大学法文学部および教育学部より、「博物館実習生の受入れと指導について」の依頼を受け、2005年8月11日より8月12日まで実施した。両学部にて開講されている「博物館実習」の不足時間数にたいする補講を総合研究博物館が担当するもので、法文学部生2名、教育学部生3名が受講した。

また、常設展示室における実習は、大木が担当した。

2005年度の博物館実習では、落合が、第5回特別展「植物のビーズ—おしゃれ！ジュズダマ」に関連づけて以下のような実習を行った。なお、受講者は3名であった。

実習1 特別展のテーマと展示内容を理解する

担当学芸員から特別展の概要について説明をうけたあと、展示資料を見学した。とくに、資料

を構成する素材であるジュズダマの種子について、その使用法や用途を観察した。

実習2 記念来場者をむかえるために

来場者〇〇人目などの記念来場者をむかえたときに、どのような方法で歓迎したらよいかを考えた。このようなイベントの意義や集客における効果を全員で検討したあと、それにもとづいて歓迎プランをつくった。それは、1000人目の来場者がきたときにはくすだまを割る、100人目ごとにジュズダマの種子でつくったオリジナルのアクセサリーをプレゼントするというものであった。また、このプランに沿って、実際にくすだまとアクセサリーを製作した。

実習3 来場者が実物にふれるために

来場者の中には、ジュズダマ属植物をまったく知らない人、見たことがない人がいることが予想されたため、その種子を希望者に配布することを企画していた。実習生は、そのパッケージデザインを考案し、じっさいに製作してみた。種子の形状がわかりやすく、手に取りたくなるような見た目のよさ、種子が散逸しない、取り扱いやすいなどの機能性、材料コストなどの経済性、さらには、大量生産するための製作の簡便さを追求した結果、小型のプラスチック・バッグに種子30個、特別展の名称をしめしたラベル、薄い色紙2枚をつめたのち、ワイヤー入りの紙ひもでハンドルをとりつけたパッケージを考案した。

実習2の成果は、プレゼントするアクセサリーが、誰がどのような目的で作ったのかという意味づけの点で弱かったため、採用されなかった。だが、実習3の成果であるパッケージデザインは、そのまま特別展に採用された。実習後、ボランティアスタッフによって、同じデザインの種子パッケージ約700個が作られ、会場で配布された。これは、来場者がジュズダマについて思い出や経験を語るきっかけに、あるいは、種子でものをつくるという特別展のテーマを自ら実践するために、たいへん効果的な仕掛けとなった。また、実習1で特別展のバックグラウンドを知り、展示資料を見たことによって、関連デザインを考える上でのコンセプトを明確にした。そのうえで実習3に取り組んだことが、展示資料と来場者を有機的にむすびつけるデザインを生み出すことにつながったと考えられる。

さいごに、実習生が特別展会場を訪れ、実際に自分たちが考案したパッケージが来場者に配布される様子を見、また受け取った来場者の喜びの声にふれることができたことは、実習の成果を確認する上で重要であった。大学博物館での博物館実習のあり方として、実習を活動の現場に反映させる手法は、今後も取り入れられるべきものであるといえよう。

9 出版・広報

本年度の、主な出版物はニューズレター No. 11・12・13、研究報告No. 2『鹿児島シラス百景』であった。

ニューズレター

ニューズレター No. 11は、第5回特別展に関する展示内容を特集で紹介した。A4・20ページ。

ニューズレター No. 12は、2003年から取り組んでいる地域貢献事業「フィールドミュージアムの構築」に関連して、鹿児島大学構内をフィールドミュージアムの対象としてとらえ、郡元キャンパスで進行しているヤシオサゾウムシの活動とフェニックスの枯死について、曾根晃一氏（鹿児島大学農学部教授）に寄稿いただいた。また、自然体験ツアー「あれもつかえる・これもつかえる－身体をつつむかたち－」を終えて、その成果と意義を講師であった佐藤優香氏（国立歴史民俗博物館助手）にレポートをいただいた。ほか、工学部海洋土木学科から寄贈されたウミガメ標本、植物標本を挟んでいた昭和初期の台湾の古新聞などの紹介を行っている。A4・10ページ。

ニューズレター No. 13は、2005年8～9月に実施した南さつま市奥山（六堂会）古墳発掘調査の概要の紹介、鹿児島大学構内遺跡出土の特徴ある紡錘車について資料紹介を行った。

『鹿児島シラス百景－太古からの贈り物 鹿児島原風景を創る大規模火砕流－』

鹿児島大学総合研究博物館研究報告No.2として出版した。著者の稲田博氏は鹿児島大学総合研究博物館学外協力研究者である。稲田氏は長年鹿児島県庁に勤務し土木部長まで勤めるとともに、鹿児島大学工学部で非常勤講師もなされてきた。現在、鹿児島県技術士会会長も務められている。

この研究報告は氏が長年鹿児島県内を歩き、写真に納めてきた鹿児島の自然景観を代表するさまざまなシラスの様相を紹介するものである。各撮影地点は国土地理院1/25000地図で示し、各地点での地質学的な所見も加え、大木公彦（総合研究博物館）が監修している。出版に当たっては徳田屋書店（鹿児島地図センター）と契約を結び、出版後・同書店にて販売している。A4判111ページ。

ポスター・チラシ

第5回特別展「植物のビーズーおしゃれ！ジュズダマ」にあわせて展示案内用のB2ポスターを作成した。ポスターは学内各所に掲示し、また各教育委員会や博物館等の施設にも送付し、掲示の依頼を行った。また、鹿児島市内を走る路面電車の吊り広告用にB3ポスターを作成し、掲示を委託した。

展示紹介のポストカードを1種類作成し、市内各所で配布を行った。

10 ボランティア活動

2004年度に引き続き、博物館業務のうち人員を要するものについて作業を円滑に進める目的でボランティアの募集をおこなった。前年度より活動を継続していただいた方も含めて総勢34名が参加した。

(1) 常設展示室に関わる業務の補助

団体の見学者がある際、展示室の案内補助および監視の補助を行った。

大学祭期間中の11月12日および11月13日に展示室の案内補助および監視の補助を行った。

(2) 第5回特別展に関わる業務の補助

会期中（10月17日～11月16日）の案内係補助および監視の補助として、2名ずつ1日5交代で担当した。

(3) 考古学資料の整理

ボランティア3名により、構内遺跡から出土した土器の接合、マーキング作業が行われた。

(4) その他

ボランティア間の交流をはかり、なおかつボランティア企画へ向けての話し合いの場として、ボランティアの集いを4回行った。ボランティア自主企画「伊能大図見学ツアー」（5/3）、「植物園ウォークラリー 2005」、(11/12-11/13)を行った。鹿児島大学学生部学生生活課主催の学内ボランティア活動に参加し、活動内容の発表を行った。



植物園ウォークラリー

11 標本管理活動

植物標本室

2005年度に植物標本室とその収蔵標本に関しておこなった主な活動を以下に報告する。

①標本補修作業

前年に引き続き、福元（総合研究博物館）とボランティアの小田原祥子氏が標本の補修と汚れおとしの作業を行った。

②利用者への公開

2005年4月から2006年3月までに、10名の専門家が研究のために植物標本室を利用した。そのなかには鹿児島大学農学部、理学部、水産学部の教員のほか、西南日本植物情報研究所、高知県立牧野植物園、京都大学生態学研究センター、琉球大学教育学部の研究者が含まれる。

また、教育目的の利用では、農学部講義「民族植物学」、農学研究科「民族植物学特論」、農学部講義「樹木学実習」、共通教育講義「博物館へのいざない」、教育学部講義「博物館概論」の受講者が植物標本室を見学し、植物標本の意義とハーバリウムの役割について理解を深めた。

③文献寄贈

標本室利用者から以下の文献が寄贈された。

脇田悟寿、立石庸一（2005）「琉球列島のモダマ類」Bunrui 5(1)：9-19.

立石庸一、松村俊一、山城考、新城和治（2004）「琉球列島植物分布資料17」沖縄生物学会誌41：61-17.

立石庸一、横田昌嗣、新城和治、平岩篤、新納義馬（2002）「硫黄島島の植物相」沖縄県史資料編13硫黄島島.

横田昌嗣、新城和治、立石庸一、平岩篤、新島義龍、日越国昭、喜屋武敬子、翁長（真志喜）丈子、新納義馬（2002）「硫黄島島の植生」沖縄県史資料編13硫黄島島.

立石庸一、横田昌嗣、新城和治、平岩篤、新納義馬（2001）「沖縄県硫黄島島の植物相とその構成種の散布様式」沖縄生物学会誌39：49-76.

立石庸一、横田昌嗣、新城和治、平岩篤、新納義馬（2001）「沖縄県硫黄島島で見出された分類学的あるいは植物地理学的に注目される維管束植物」沖縄生物学会誌39：77-92.

④植物標本データベースの構築と公開

前年に引き続き、岩井雄次技術補佐員が担当して、ラベルデータの入力作業をおこなった、その結果2005年4月から2006年3月までの間に、ムラサキ科 (Boraginaceae) の一部からキク科 (Compositae) の一部まで、7,459件を入力することができた。これにより入力済みデータの総数は、15,098件となった。

また、2006年1月31日に、ラベル情報を検索、閲覧するシステムの公開を始めた。これは、鹿児島大学学術情報基盤センターの森邦彦氏、佐野英樹氏のご助言とご協力、および科学研究費補助金・研究成果公開促進費（データベース）課題番号178078「日本タイプ標本データベース」のご支援をいただいた結果である。1月31日に3,822件を公開後、順次閲覧できるラベルの件数をふやしつつある。

⑤コケ類標本リストの作成

2003年2月20日、新敏夫氏（元鹿児島大学教養学部教員・故人）が採集したコケ類標本を、鈴木英治氏（鹿児島大学理学部教授、本館兼務教員）より寄贈いただいた。植物標本室にて保管していたこの標本について、宮本句子氏（鹿児島大学理学部助教授、本館兼務教員）が2005年8月にラベル情報のリストを作成した。宮本氏のご協力により、次ページにこのリストを公開する。標本のインデックスとして、ご活用いただきたい。

コケ類標本リスト

属名	種小名	亜種, 変種, 品種等	命名者	上位分類 群名	基準 標本	他分類群名, 同定者等	関連論文 情報	年月日	地 名	人名等, 標本番号	標本 番号
Theriotia	lorifolia		Card.			Det.K.Sakurai		Aug.3.1934	大隅, 屋久島, 小杉谷, 湿地岩上	Y.Doï (No.1380)	9209
Fissidens	crenulatus		Mitt.	Semilinfidium	TYPUS		J.Linn.Soc.Bot.Su- ppl. 1 : 140 (1859)		ネパール, Nepal	in NY, Dr. Wallich	23680
Fissidens	circinalis		Mitt.	Sect. Crispidium	TYPUS		J.Linn.Soc.Suppl. 1 : 138 (1859)		ビルマ, mountains above Qva, Burma	in NY	23679
Fissidens	nagasakinus	var.luzonensis		Sect.Serridiu- m	TYPUS	F.nagasakinusと 同一とする		May.1911	比, Luzon, Benquet Subprovince, Philippines	in NY, E.D.Merrill (7851)	23716
Fissidens	samoanus		C.Muller	Sect.Ambliot- helia	TYPUS	F. mangarevensis Mont.	J.Mus.Godeffroy 3(6) : 59 (1874), Proc.Linn.Soc.Wa- les 55 : 272 (1930)		サモア, Upolu Litoralzone, Samoa	in NY, Dr. Graeffe	23684
Fissidens	zollingeri		Mont.	Sect.Bryeidium	TYPUS		Ann.Soc.Nat.Bot. ser.3.4 : 114(1845)		Zollinger, Java	in NY	23667
Fissidens	neacaledonicum		Besch.	Sect.Amblyot- halia	TYPUS				ニューカレドニア, Neucaledonia	in NY, Balensa 2923	23681
Fissidens	nadeandii		Besch.	Sect.Ambliot- halia	TYPUS		Ann.Ac.Nat.Bot.s- er.7, 20 : 22(1894)s		タヒチ, Society Islands, Tahiti	in NY, Legit. Dr. Nadeand	23683
Fissidens	micronesicus		H.O.Whitt- ier		TYPUS				Pulo Anna Island, 3-10 feet, Micronesia	Leg.Lee & Dutton-37	
Fissidens	kabrisetus		Mitt.	Sect.Semilimi- bidium	TYPUS		J.Linn.Soc.Bot.10 : 184(1868)		サモア, Tutuila, Samoa	Reo.F.Powell 63	23685
Fissidens	truncorum		Besch.		TYPUS				ニューカレドニア, New Caledonia	in NY, Krieger1866	23669
Fissidens	kondoi		Sakurai	Sect.Cremilar- ia	TYPUS	F.micronesicus Writillie ; Nova Hedurigia, 11 : 5(1963)	Bot.Mag.Tokyo 57 : 250(1943)	Aug.20.1941	ボナベ島ヘゴの幹上	Leg.N.Kondo	19582
Fissidens	lagenarius		Mitt.	Sect.Cremilar- ia	TYPUS		J.Linn.Soc.Bot.10 : 184(1868)		サモア, Tutuila, on Cyathea leucilepis, Samoa. 170 long, 140 lat.	in NY	23670
Fissidens	higaensis		Sakurai		Iso-TYPUS			Nov. 4. 1934	Kyusyu : Kumamoto pref.Aso-gun, Nishikino-mura Tobibotoke洞中	Leg.N.Takaki (No.194)	18027
Fissidens	adiantoides	f.polyphyllodes	Besch.		Iso-TYPUS			March,1893	Nagasaki	Faurie(No.15452)	18494
Fissidens	adiantoides	f.praecox			TYPUS, Isosynotype	F.cristatus, det.T.Shin		Sept.19, 1895	Shuzenji, Prov.Idzu	Leg.U.Faurie' (15220)	18500
Fissidens	adiantoides	f.praecox	Besch.		TYPUS, Isosynotype	F.japonicus, det.T.Shin		March 5, 1895		U.Faurie(15391)	18502
Fissidens	adiantoides	f.atrovirens	Besch.		TYPUS, Isosynotype	det.T.Shin		April 30.1893	Montagues de Sapporo	U.Faurie(9231)	18505
Fissidens	adiantoides	f.atrovirens			TYPUS, Isosynotype	F.cristatus, det.T.Shin		Oct.3,1894	Hokkaido, Prov.Kitami, Mombetsu	U.Faurie(14610)	18506
Fissidens	adiantoides	f.cristatus			TYPUS, Isosynotype	F.cristatus, det.T.Shin		March, 27, 1893	Riishiri	U.Faurie(9569)	18504
Fissidens	hyalimis				TYPUS, Type of F.satsumensis	F.satsumensis		Feb., 3, 昭和6	サツマ, 伊集院町, イ ガクラ	Leg.Y.Doï(499)	22902
Fissidens	remotissimus				TYPUS, Type				サツマ, 田布施村, 水 辺岩上	Ley.Y.Doï(540)	22901
Fissidens	Doiï		Sakurai		Co-type			Dec.,14. 1930	薩摩, 阿多村, 水辺岩 上	Leg.Y.Doï(No.471)	9134
Fissidens	okinawaensis		Bartram		Iso-TYPUS			March,17.1946	Ryukyu : Okinawa Uehitomati on ground around roots of Pine tree	Leg.W.S.Newco- mer(3)	
Fissidens	higoensis					Det.A.Nog.		Oct., 5.1936	熊本県球マ郡神瀬村岩 上	H.Takahashi(377), Herb.Takaki 2208	18189
Fissidens	yamamotoï		Sakurai		TYPUS				Pref.Kochi, Ioki on clay soil	Sakurai-14146	19581
Fissidens	saxatilis		Tuzibe et Noguchi		Iso-TYPUS			Dec., 13.1936	Kyusyu : Nisize.prov.Higo, among F.lateraloides	Leg.Mayebara (827)	15253b

Fissidens	ryukyuensis		Bartram		TYPUS		Jan.27.1946	Ryukyu : Isl.Okinawa, Uchitomari	Leg.W.S.Newoner(6)	
Fissidens	adiantoides	f.subdecipiens	Besch.		Iso-TYPUS	F. cristatus	July.1894	Tsurugizan	U.Faurie(14517)	
Fissidens	lateralis		Broth		ex-TYPUS		Oct.13.1860	Kiushiu : Nagasaki, an Felsen	Wichura No.1413a	
Fissidens	perdecurrens		Besch		Iso-TYPUS		July. 14.1894	Katta, Cascade de Kudo	U.Fauris(14088)	18483
Fissidens	Mayebarae		Sak.		TYPUS		Feb., 23.1936	Isshoochi, Higo, on rock	K.Mayebara	
Fissidens	Tawadae		Toyama		Iso-type		10-II-1937	沖縄島中頭郡美里村	S.Tawada No.661(J.Amano No.1573)	14667
Fissidens	adiantoides	f.praecox			TYPUS, Iso-syn-type	F.cristatus (det. T.Shin)	Oct.,1894	Ganju	U.Fauris(144099)	18498
Fissidens	adiantoides	f.subdecipiens			Iso-TYPUS	F.faurie (det.T.Shin)	July,1894	Tsurugisan	U.Faurie(14517)	18495
Fissidens	diversiretis		Broth.		ex-TYPUS	F.gradifrous, det.T.Shin		支, Prov.Yunnan		22980
Fissidens	diversiretis		Broth.		TYPUS	F.gradifrous, det.T.Shin		支那雲南		19583
Fissidens	hetero- limbatus				ex-TYPUS			サツマ, 伊集院町	Leg.Y.Do	23087
Fissidens	niigataensis		Sakurai		TYPUS, ex-type	F.tosaensis (det.T.Shin)	July 27.1936	越後, 新潟	Leg.Niso Iwasaki (5309)	23084
Fissidens	microsarratus				TYPUS, ex-type		April 19.昭6	サツマ国, 永吉村, 火山灰上	Y.Do (614), Sk-1679	23077
Fissidens	jap-amabilis		Sakurai		TYPUS, ex-type	F.laterdioides (det.T.Shin)	Dec.25.1936	Prov.Higo.Kawamura	K.Mayebara,Sk-9336	23068
Fissidens	gottschaoidis		Besch.		type?			Japan	com Besburelle, Herb.I.Thiriot	23029
Fissidens	tutigae		Sakurai		TYPUS, ex-type	F.plegiochiloides, det.T.Shin	Oct.昭15	菰野山	植賀安平 (853), Sk-13607	23020
Fissidens	Reimersii		Sakurai		TYPUS, ex-type	F.unmellis	Feb.3.1931,Sk-3008	サツマ国伊集院町		23018
Fissidens	recurvicaulis		Sakurai		TYPUS, ex-type	F.plogiochiloides, det.T.Shin	Sept.16.1934	肥後. 阿蘇郡久木野村 岩上	Leg.N.Takaki (170),Sk-4267	23017
Fissidens	mayebarae		Sakurai		TYPUS, ex-type		March 19. 1936	肥後一勝地 on rock, ラベルに(前送品より一里上流)と記入	Leg.K.Mayebara, Sk.7595	23016
Fissidens	mayebarae		Sakurai		TYPUS, ex-type		Feb.23.1936	肥後一勝地 on rock	Leg.K.Mayebara, Sk.7595	23015
Fissidens	higoensis		Sakurai		TYPUS, ex-type		Nov.4.1934	肥後. 阿蘇郡錦野村ニシキノ洞穴水流岩上	Leg.N.Takaki,Sk-4220	23014
Fissidens	magofukui		Sakurai		TYPUS, sp.nov.	F.nagasaknu, det.T.Shin	March 21. 1941	伊勢. 度会郡宮本村前山	T.magofuku (1152)	23013
Fissidens	yamamotoi		Sakurai		TYPUS, ex-type		Jan.23.1940	Tosa,Ioki	Leg.K.Yamamoto (2836), Sk-14146	22998
Fissidens	shinii		Sakurai		TYPUS	F.yamamotoi, det. T.Shin	Nov.23.1950	カゴシマ県始良郡新川 溪谷	Leg.T.Shin	7618
Fissidens	nakamurae		Sakurai		ex-TYPUS		Aug.14.1932	下野古賀志山流 (生時黄色)	Leg.M.Nakamura,Sk-7933	22981
Fissidens	hondai		Sakurai		ex-TYPUS		Nov.6.1932	サツマ, 宮ノ城町水辺	Leg.Y.Do(998), Sk-2935	22979
Fissidens	koshikijimense		Sakurai		ex-TYPUS	F.cristatus- det.T.Shin	Aug.18.1934			
Fissidens	recurvicaulis		Sakurai		ex-TYPUS	F.plagiochiloides	Dec.25 1934	肥後. 球磨郡一勝地村 on rock	Leg.N.Takaki (258), Sk 4393	22977
Fissidens	japonicoides		Sakurai		TYPUS	F.plogiochiloides- det.T.Shin	March 20. 1935	肥後. 内大臣宮村	N.Takaki (324), Sk-4508	22973
Fissidens	plagiochiloides		Besch.		ex-TYPUS		5 Juln June, 1885	China : Province de Yunnan, Tsand chen, sons Tali	Delavay-1872	20332
Fissidens	deciduaefolius		Sakurai		TYPUS	F.plogiochiloides Besch.		Pref.Tokyo Mt.Takao in cave	→HIRO	19578
Fissidens	jap-amabilis		Sak.		Iso-type		Dec.25.1936	Kyusyu, Pref.Kumamoto Kawaramura on weathered stuff	Leg.K.Mayebara (853)	24839
Fissidens	mayebarae		Sak.		Iso-type		Feb.23.1936	Kyusyu, Pref.Kumamoto Isshoochi on rock	Leg.K.Mayebara (546)	24838

Fissidens	recurricaulis	Sakurai		F.plagiochiloides Besch.	Sept.16.1934	Kyusyu : Kumamoto-Pref. Aso-gun, Kuginomura on rock	Leg.N.Takaki (no.170)	18026
Fissidens	japonicoides	Sakurai		F.plagiochiloides Gesch.	March.20.1935	Kyusyu : Kumamoto Pref. Mt.Naidajin on moist soil	Leg.N.Takaki (no.324)→HIRO	18028
Fissidens	tutigae	Sakurai		F.plagiochiloides		Pref.Mie : Mt.Kamonoyama on shady wet soil	Y.Tutiga Herb.Sak.-13607, →HIRO	19585
Fissidens	microserratus	Sakurai	Co-type		April 19 1931	薩摩永吉村	Leg.Y.Do	9136
Fissidens	hondoi	Sakurai			Aug.20.1941	ボナベ島へゴの葉上	Leg.N.Kondo 近藤典生, Sek-14432	22889
Fissidens	nagasakinus		ex-TYPUS, Holotype	Holotype of F.pachy-aristateis	Jan.20.1935	肥後阿蘇山垂玉温泉溪流中	Leg.N.Takaki (302), Sk-4486	22998
Fissidens	nagasakinus	Besch.	Isosyn-TYPUS, isosyntype		March 8.1895	Nagasaki	U.Faurie(15427)	18484
Fissidens	nagasakinus	Besch.	Isosyntype		Nov.1893	Shikoku, mertagues de Tosa?	U.Faurie(11160)	18480
Fissidens	nagasakinus	Besch.	TYPUS		Nov.18.1893	Shikoku, mertagues de Tosa?	U.Faurie(11199)	18479
Fissidens	irroratus	Card.	ex-TYPUS, sp.nov.	F.nagasakinus, det.T.Shin	1903	Formosa : Keleing, Carcaly	Leg.U.Faurie (No.174)	23019
Fissidens	irroratus	Card.	TYPUS, isotype	F.nagasakinus	1903	Formosa : Keleing, Carcaly	Leg.U.Faurie (No.174)	19639
Fissidens	rubrutheca	Sakurai	Iso-TYPUS	Dr.A.Nog. As F.gymnogynus Brsch.	Jan.4.1935	Kyusyu : Kumamoto-Pref. Kamimashiki-gun, Kawaharu-mura	Leg.H.Takahashi (Herb.Takaki 254)	18029
Fissidens	rubritheca	Sakurai	Para-TYPUS	F.gymnogynus	Dec.25.1934	ishshochi-mura on moist rock	Leg.N.Takaki (No.260)	18030
Fissidens	gymnogynus	Besch.	Iso-TYPUS		Nov.18.1894	Prev. Akita, Sengantoge	U.Faurie(14964)	18482
Fissidens	hattorii	Sakurai	TYPUS	F.--utulers		九州. 屋久島 on wet place	Leg.S.Hattori, Herb.Sak.-13583→HIRO	19587
Fissidens	pachyaristatus	Sakurai	ex-TYPUS	F.nagasakinus, type det.T.Shin	March.10.昭10	肥後田浦村湿地上	Leg.H.Kaneda (30), Sk-4818	22997
Fissidens	pachy-aristatus	Sakurai	TYPUS	F.nagasakinus		九州肥後田浦	H.Kaneda→HIRO	19586
Fissidens	nagasakinus		TYPUS	type of F.takaii	Jane 17.1934	肥後上谷城郡河原村	Leg.N.Takaki(85), Sk-3688	22906
Fissidens	mollicaulis	Sakurai	Iso-TYPUS	F.nagasakinus	Jan.4.1935	Kyusyu : Kumamoto Pref.Kamimashiki-gun, Kawaharu-mura	Leg.H.Takahashi (Herb.Takaki no. 255)→HIRO	18031
Fissidens	mollicaulis	Sakurai	ex-TYPUS	det.F.nagasakinus, T.Shin	Jan.4.1935	肥後上谷城郡河原村	Leg.H.Takahashi (255), Sk-4395	23044
Fissidens	crenulatifolius	Dix.et Sak.	Iso-TYPUS	F.nagasakinus	Nov.4.1934	Kyusyu : Kumamoto Pref.Asogun, Nishikinomura on rock	Leg.N.Takaki (no.206)	18025
Fissidens	shinii	Sakurais	Iso-TYPUS	F.yamamotoi	Nov.23.1950	Kyusyu : Osumi, Makizonocho, Shinkawa-valley, on rock in semi shady places	Leg.T.Shin→HIRO	7618
Fissidens	sataumensis	Sakurai	Co-type, Isotype	F.hyalimus	Feb.3.1931	Kyusyu : Pref.Kagoshima, Ijyuincho, (on wet rock)	Leg.Y.Do (No.499)→HIRO	9135
Fissidens	adiantoides	f.praecox	Besch.	TYPUS, Isosyntype	March 1.1895	Nagasaki	U.Faurie(15325)	18507
Fissidens	adiantoides	f.praecox		TYPUS, Isosyntype	Nov.22.1893	Kochi	U.Faurie(11244)	18501
Fissidens	adiantoides	f.praecox		TYPUS, Isosyntype	Jane 14.1894	Hayachinesan	U.Faurie(12817)	18499
Fissidens	adiantoides	f.praecox	Besch.	TYPUS, Isosyntype	Oct.27.1894	Yubari	U.Faurie(14743)	18496
Fissidens	adiantoides	f.praecox		TYPUS, Isosyntype	Oct.27.1894	Yubari	U.Faurie(14771)	18497
Fissidens	adiantoides	f.atrovirens	Besch.	Isosyn-TYPUS	Nov.30.1894	Hakodate	U.Faurie(15117)	18503
Fissidens	Gottscheoides	Besch.	Iso-TYPUS		May 28.1894	Furumagi	U.Faurie(12682)	18481
Fissidens	latorialoides	S.Okamura	TYPUS, Holotype		Nov.12.1914	Honsyu : Ettiu 湿地		17903

Fissidens	tosaensis	Broth.	TYPUS, Isotype		Dec.2.1905	Shikoku : Tosa,Kochi,Masugata	Leg.S.Okamura (293)	17904
Fissidens	namlus sp.nov.	Sak.		shinii Sak.det.Sak.	Dec.10.1950	薩摩伊集院町太田 (原 之岡ノ井戸ワキ) 水タ メノクチ	Leg.T.Shin	7656
Fissidens	tosaensis	Broth.	Iso-TYPUS		Dec.2.1905	Japan prov.Tosa Kochi Masugata	Leg.Sk.Olamura (293)	
Fissidens	tosaensis			F.ryukyuensis	May 19.1954	in cave on the coral- leaf	Leg.T.Shin.int	12638
Fissidens	schwabei	Noguchi	TYPUS		1947	Formosa : Karobetsu	Leg.G.H.Schwabe (66)(Hattori- 28001)	
Fissidens	taiwanensis	Herz.et Noguchi	TYPUS	F.brisidesと考 えるT.S	Aug.1947	Formosa Gebirgesgegend in westlichen mitteltaiwan.zeltplatz. 1200m	Leg.G.H.Schwabe 5pp.Hattori- 27998	
Fissidens	kiusiuensis	Sakurai	Co-type	F.crosteri	Jan.27.1931	薩摩伊集院町中学校裏 山	Leg.Y.Doi(492)	9132
Fissidens	iriomotjimensis		TYPUS, n.sp.		Nov.7.1958	琉球, 西表島 Amitori 30m moist on sandy soil by the stream	Leg.T.Shin→ HIRO	16322
Fissidens	verruculosus	T.Shin	TYPUS, type.n.sp.	crenularia, Iso- type—部野口氏	Aug.20.1955	奄美群島, 徳之島, 母 間 - 三京 - 西阿木名 150m on the bark fo trees	Leg.T.Shin int.→ HIRO	13932
Fissidens	horikawanus	Shin	TYPUS, n.sp.		Oct.30.1957	Isl.Okinawa,Ogimi- mura,Taminato-ugan 70m on clay	Leg.T.Shin	15043
Fissidens	reimersii	Sakurai	TYPUS			サツマ伊集院町	Y.Doi-1140	19579
Fissidens	dimorphophyllus	Sakurai	TYPUS	F.hetero- limlatuss		Pref.Wakayama	Leg.H.Sasaoka- 3698	19580
Fissidens	hondai	Sakurai	TYPUS			九州Satsuma宮之城町	Leg.H.Doi(no.998)	19584
Fissidens	Reimersii	Sakurai	Co-typus	F.nanallus Sak.F.tosaensis 混在	Feb.3.1931	薩摩伊集院町	Leg.Y.Doi (No.1140)→HIRO	9131
Fissidens	pseudogymnognias	Toyama	Holo- TYPUS	F.cristatus (det.T.Shin)	July 21.1935	九州 Prov.Osumi.Isl.Yakusi- ma.Anbo-kosugidani on bark (0-400m)	Leg.R.Toyama (1138)→HIRO	18475
Fissidens	yakushimensis	R.Toyama	Holo- TYPUS	F.oreolatus (det.T.Shin)	Aug.2.1935	Kyusyu : Prov.Osumi, Isl. Yakushima 永田 - 障子小屋on rock	Leg.R.Toyama (1148)→HIRO	18478
Fissidens	neo-rivularis	Sakurai	TYPUS	F.rivularis		Pref.Shizuoka,Joerenda- ki on wet place	Sakurai-1022	19575
Fissidens	jap-amabilis	Sak.n.sp.d- et.Sak.	Iso-TYPUS	F.lateraloides Det.T.Shin	Dec.25.1936	Kawamura, Higo weathered stuff	K.Maebara→ HIRO	17901, M.853
Fissidens	Mayebarae	Sak.n.sp.d- et.Sak.	Iso-TYPUS	F.doii	Feb.23.1936		K.Maebara→ HIRO	17837, M.546
Fissidens	shinii	Sakurai	TYPUS, Iso-type	F.yamamotoi		鹿児島県牧園町新川溪谷 on rock in semi-shady	Leg.T.Shin- 7618,Sak-20468	19588
Fissidens	uii	Broth.	TYPUS	F.doii	Feb.23.1918	紀伊西 - 口郡上秋津村	Leg.N.Ui (267) Herb.Sak.9298 (命名の原品と同 一のものか?) → HIRO	19640
Fissidens	osadae	Sakurai	TYPUS	F.sakurae		Pref.Kanagawa Jimmuji	Leg.T.Osada,Sa- kurai-4386→ HIRO	19576
Fissidens	nitideocostatus	Toyama	Holo- TYPUS	F.microserratus (det.T.Shin)	Aug.2.1935	Kyusyu : Prov.Osumi, Isl. Yakushima,Nagata.on soil	Leg.R.Toyama (1172)→HIRO	18476
Fissidens	nitideocostatus	Toyama	para- TYPUS	F.microserratus (det.T.Shin)	Aug.2.1935	Kyusyu : Prov.Osumi, Isl. Yakushima,Onoaida.on soil	Leg.R.Toyama (1143)→HIRO	18477
Fissidens	nakamurae		TYPUS	F.gamberi		下野古賀志山	Leg.M.Nakamu- ra	19577
Fissidens	Hondai	Sakurai	Iso-TYPUS		Nov.6.1932	Kyusyu : Pref.Kagosima,Miyano- jo-cho.on rock by river	Leg.Y.Doi (no.998)→HIRO	
Fissidens	remotissimus	Sakurai	Co-type		March 1.1931	サツマ, 田布施村, 水 辺岩上	Leg.Y.Doi (No.540)→HIRO	9133
Fissidens	koshikijimensis	Sakurai	Iso-TYPUS	F.cristatus (det.T.Shin)	Aug.18.1934	Kyusyu : Pref.Kagoshima, Isl.Koshikijima,Mt.Oda- ke, on bark of Cryptomeria japonica	Leg.Y.Doi (No.1372)→HIRO	
Fissidens	hetero- limbatus	Sakurai	Isosyn- TYPUS, isosyntype		March 23, 1931	Kyusyu : Pref.Kagoshima, Ijyuin-cho.west side of Tokushige-jnsha	Leg.Y.Doi (No.570)→HIRO	

Fissidens	sakourae			TYPUS	type of F.salicifolius	April 10.192	伊豆, 日金山	Sk-521)	
Fissidens	plagiochiloides			TYPUS	type of F.deciduafolius	Nov.1930	東京都高尾山	Leg.K.Sakurai (1625)	22907
Fissidens	papillosus	Lac.				March 23.1970	本州(西南)三重県伊 勢市内宮城内山 ca.10mクスノキ樹皮上	Leg.Kohsaku Yamada	26721
Fissidens	doi	Sakurai		TYPUS		Dec.14.1930	サツマ国阿多村水辺岩 上	Leg.Y.Doi(471), Sak-1673	22903
Ditrichum	dicranelloides	Sakurai		Co-type		Jan.20.1935	大隅重富村	Leg.Y.Doi (No.1421)	9081
Dicranodon- tium	tenuinerve	Dix.et.Sak.		Co-type		march 30 1934	大隅高隈山	Leg.Y.Doi (No.1300)	9083
Dicranodon- tium	nitidum	Fl.				July 26 1932	大隅屋久島小杉谷-安 房岩上	Leg.Y.Doi (No.812)	9152
Trematodon	Semitortidens	Sakurai	Co-type			July 27 1932	屋久島小杉谷-花ノ江 川地上	Leg.Y.Doi (No.870)	9072
Campylopus	yakushimensis	Sakurai		Co-type		July 28 1932	屋久島花ノ江川湿地	Leg.Y.Doi (No.877)	9073
Oreoweisia	formosana	Sakurai		TYPUS, iso-type		July 25.1939	台湾新高山タータカ- 新高下	Leg.T.Shin	917
Oreoweisia	formosana	Sakurai sp.nov.		TYPUS, so-type		July 25.1939	台湾新高山タータカ- 新高下	Leg.T.Shin	917
Dicranoweisia	pumicecola			Co-type		Feb.1.1930	薩摩伊集院町軽石上	Leg.Y.Doi (No.50)	9082
Dicranoloma	subcylindroth- ecium	Broth.	Dicranaceae		det.K.Sakurai	July 27 1932	大隅屋久島花之江川樹 上	Leg.Y.Doi (No.910)	9151
Kiaeria	retifolia	Broth.	Dicranaceae		Det.K.Sakurai	July 28 1932	大隅屋久島花之江川- 宮ノ浦岳樹上	Leg.Y.Doi (No.885)	9183
Didymodon	percarinatus	Dix.et Sak.	Pottiaceae			Aug.5.1934	大隅屋久島黒味岳岩上	Leg.Y.Doi (No.1381)	9076
Hyophila	bilo-insulare	Sakurai		Co-type, n.sp.s		Nov.7.1950	大隅志布志町枇榔島	Leg.T.Shin	7497
Barbula	Shinii			sp.nov.		Nov.23.1950	大隅牧園町新川溪谷	Leg.T.Shin	7634
Barbula	Shinii			sp.nov.		Nov.23.1950	大隅牧園町新川溪谷	Leg.T.Shin	7633
Leptodontiu- m	Japonicum	Sakurai		sp.nov.type ヨリ分け		昭和19年1月 25日	愛媛縣新居郡角野町東 平	Leg.K.Oti (No.611)	7725
Leptodontiu- m	sikokianum	Sakurai,n. sp.				昭和19年9月 28日	愛媛縣新居郡角野町角 石原kadoishiwara	Leg.K.Oti (No.815)	7724
Grimmia	rubra	Sakurai		TYPUS, iso-type		July 25.1939	台湾新高山タータカ- 新高下	Leg.T.Shin	926
Grimmia	rubra	Sakurai		TYPUS, iso-type		July 25.1939	Formosa新高山	Leg.T.Shin	
Grimmia	Otti	Sakurai,n. sp.		isotype		昭和20年11月 1日	愛媛縣新居郡中萩村尾 端Nakahagi,Obana	Leg.K.Oti (No.1228)	7730
Grimmia	rubra	Sakurai,sp. nov.		Isotype, (co-type)		July.25.1939	台湾新高山タータカ- 新高下	Leg.T.Shin	926
Ptychomitri- um	yakushimense	Sakurai			Syn by Noguchi.Co-type	Dec.27.1934	大隅屋久島湊川岩上	Leg.Y.Doi (No.1401)	9106
physcomitri- um	hiusinense	Sakurai		Co-type		March 8 1930	大隅内之浦町	Leg.Y.Doi (No.162)	9088
Mnium	laeninerve	var.rubriate	Sakurai		Co-type	Feb.15.1931	薩摩伊集院町	Leg.Y.Doi (No.574)	9119
Mnium	Doii		Sakurai		Co-type	Feb.26 1933	薩摩郡山村水辺岩上	Leg.Y.Doi (No.1099)	9118
Mnium	tenegashimen- se		Sakurai			June 21 1932	大隅種子島中種子村浜 津脇湿地岩	Leg.Y.Doi (No. 778)	9117
Mnium	immarginatum (L.db.)	Broth.		type	syn. Achigagonium unikawaense Takaki	July 1947	本州愛知県三輪村	Leg.N.Takaki (No. 4197)	14675
Rhizagoniu- m	armatum	Sak.		type	Rhispiniforme (L.) Bruch.	Jan.1936	Formosa : Prov.Taiwan,Mt.Ari- san	Leg.M.Sato (Types in Herb.K.Sak (No.137)	14676
Claopodium	undulatifolium		Sakurai		Co-type	July 26 1932	大隅屋久島安房-小杉 谷(樹上)	Leg.Y.Doi (No.935)	9099
Claopodium	kiusiense		Sakurai		Co-type	Aug.9 1930	熊本縣湯山村岩上	Leg.Y.Doi (No.378)	9100

Aerobryopsis	horrida		Noguchi		Iso-type		Aug.13.1932	Formosa : Rahau,Prov.Taihoku	Leg.A.Noguchi	
Floribundaria	floribunda		Fl.			Pseudobarbella Levieri (Reim.et Card.)Nog.Det.K. Sakurai	July 27 1932	大隅屋久島小杉谷 - 花 之江川	Leg.Y.Do (No. 927)	9161
Necheropsis	kiusiana		Sakurai		Co-type	Neckera tosaensi Broth.,Neohuopsis nhdula (京大 外山)	April.19.1931	九州 Satsuma 永吉村 (Nagayoshi-mura)	Leg.Y.Do (No. 403)	4034
Nechera	fleniranea	var.attenuata	Noguchi				Nov.27.1947	九州 Prov.Ousumi,Mt.Kirish- ima 林田温泉 - 大浪池 (800-1000m)	Leg.T.Shin	5406
Thamnium	latifolium	var.japonicum	Sakurai		Iso-TYPUS	T.plicatulum var.japonicum (Sak.)N.sp.carb. nov.	July 27 1930	薩摩嶺瀨尾岳	Leg.Y.Do (No. 404)	9086
Glossadelphus	recuroomarginatus		Dix.et Sak.		Co-type	Symphyodon perrotetii Mont.(by T.Shin)	March 30 1934	大隅高隈山樹皮上	Leg.Y.Do (No.1250)	9090
Fabronia	kiusiana		Sakurai		Co-type		May 24 1931	大隅栗野岳樹上	Leg.Y.Do (No.591)	9085
Schwetsckhea	Doii		Sakurai		TYPUS		April 2 1932	サツマ山野村十層イ チイガシ着生	Leg.Y.Do (No.738)	9111
Schwetsckhea	robasta		Toyama		TYPUS	Helicodontium robustum T.Shin (type) comb.nov.	April 13 1937 Nog(No.13522)	山城山科		10985
Schwatsckhea	polymorphidens		Sak		TYPUS, Iso-type			九州 Prov. Higo 水俣町 龍山タツ	Leg.H.Kaneda	19572
Schwatsckhea	kiushiana				TYPUS, Iso-type			九州日向双石山	Leg.Y.Do (No.1263)	19571
Schwatsckhea	arachnoides				TYPUS, Iso-type			九州 Prov.Osumi Isl.Sakurajima 火山 岩石上	Leg.Y.Do (No.773)	19574
Schwatsckhea	doii		Sakurai		TYPUS, iso-type				Leg.Y.Do (No.1039)	19573
Schwatsckhea	enervis		Sakurai			Ctomidium capillifolium	March 11 1934	大隅国霧島山	Leg.Y.Do (No.1263)	9110
Schwetsckhea	arachnoidea		Sakurai		Co-type		Oct.16 1932	大隅櫻島火山礫上	Leg.Y.Do (No.1039)	9112
Pseudoleskea	tenegashimensis		Sakurai		Iso-TYPUS, Co-type	Pseudoleskeopsis japonica		大隅種子島浜津脇 (湿 地岩上)	Leg.Y.Do (No.773)	9091
Pseudoleskea	cratericala		Sakurai		Iso-TYPUS, Co-type	Haplocladium microphyllum	Oct.16 1932	大隅櫻島火山砂礫上	Leg.Y.Do (No.1022)	9092
Thuidium	undulatifolium		Sakurai		Co-type		July 26 1934	大隅御在所岳朽樹上	Leg.Y.Do (No.1355)	9102
Thuidium	arachnoideum		Sakurai		Co-type		Aug.17 1932	日向青井岳岩上	Leg.Y.Do (No.959)	9101
Haplohyemium	crassum		Sakurai		Co-type		July 26 1932	大隅屋久島小杉谷 - 安 房岩上	Leg.Y.Do (No.813)	9075
Amblystegium(?)	hispidulum		Sak.		Co- type,n.sp.		Nov.7.1950	大隅志布志町靴櫛島	Leg.T.Shin	7495
Hygrohypnum	Doii	var.simplex	Sakurai		Co-type		March 1 1931	薩摩田布施村水辺岩上	Leg.Y.Do (No.541)	9121
Hygrohypnum	Doii		Sakurai		Co-type		April 5 1931	薩摩伊集院町水辺岩上	Leg.Y.Do (No.615)	9120
Brhunia	Concarifolia		Sakurai		Co-type		July 28 1932	屋久島ヤクザサ帯岩上	Leg.Y.Do (No.892)	9096
Bryhnia	alaris		Sakurai		Co-type		July 26 1932	大隅屋久島小杉谷 - 安 房湿地岩上	Leg.Y.Do (No.823)	9097
Bryhnia	nitsda		Sakurai sp.nov.		Co-type			台湾垂里山鉄道独立山 - 垂里山神木	Leg.T.Shin	829
Rhynchostegium	brachythecioides		Sak.n.sp				Oct.27 1950	大隅霧島山神宮湯之野 温泉	Leg.T.Shin	7284
Bryhnia	olivacea		Sakurai		Co-type		April 2 1932	大隅十曾山溪谷岩上	Leg.Y.Do (No.746)	9098
Brachythecium	plumozum	var.brevesetum	Sakurai		Co-type		March.15 1926	大隅櫻島	Leg.Y.Do (No.712)	9116
Brachythecium	plumosum	var.perrobustum	Sakurai		Co-type		Oct.17 1931	薩摩紫尾山樹上	Leg.Y.Do (No.664)	9115
Brachythecium	kiusianum		Sakurai		Co-type		March 8 1930	大隅内之浦町	Leg.Y.Do (No.393)	9114

Brachythecium	yakushimense		Sakurai	Co-type		July 27 1932	屋久島小杉谷 - 花之江川砂土上	Leg.Y.Doi (No.903)	9113
Rhynchostegium	Doii		Sakurai	Co-type		April 27 1932	薩摩谷山町島帽子岳	Leg.Y.Doi (No.808)	9130
Rhynchostegium	kiushiuense		Sak.sp.nov.		Brachithecium wichurae Review by Noguchi (1981)	Nov.23.1950	大隅牧園町新川溪谷	Leg.T.Shin	7583
Brachythecium	Shinii		Sak.n.sp	Co-type		Oct.27.1950	大隅霧島山神宮 - 湯之野温泉	Leg.T.Shin	7208
Brachythecium	plumozum	var.brevisetum	Sakurai			Jan.5.1931	薩摩重平山岩上	Leg.Y.Doi (No.466)	9145
Brachythecium	kuroishicum		Besch.		Det.K.Sakurai	Jan.5.1931	薩摩重平山樹上	Leg.Y.Doi (No.456)	9144
Brachythecium	glareosum		(Bruch.)Br. eur			Nov.14 1939	薩摩永吉村岩上	Leg.Y.Doi (No.429)	9143
Brachythecium	veltinum		Br.eur			Feb.8 1931	薩摩日豊村岩上	Leg.Y.Doi (No.509)	9142
Brachythecium	procumbens		Jasg.		Det.K.Sakurai	Oct.16 1932	大隅櫻島	Leg.Y.Doi (No.1041)	9141
Bryhnia	nitida		Sakurai	iso-TYPUS		July 23 1937	台湾垂里山鉄道独立山 - 垂里山神木	Leg.T.Shin	
Bryhnia	satsumensis		Sak.so.nov.	Co-type		Dec.12.1949	薩摩金峰山	Leg.T.Shin	6091
Bryhnia	satsumensis		Sak.so.nov.	Co-type		Dec.12.1949	薩摩金峰山	Leg.T.Shin	6091
Rhynchotagium	rubro-carinatum		Sak.	TYPUS, Co-type		July 25 1932	大隅屋久島	Leg.Y.Doi (No.914)	9128
Rhynchostegium	bilo-insulare		Sak.	TYPUS, Co-type.n.sp.		Nov.7.1950	大隅志布志町枇榔島	Leg.T.Shin	7492
Rhynchostegium	nipponense			sp.nov.		Nov.28.1948	播磨国 Mt.Syosya	Leg.K.Takaba (No.450)	5996
Rhynchostegium	glossophyllum			Co-type, sp.nov		Sept.6.1949	Japan,Kyushiu,Prov.S-atsuma,Mt.Sibi	Leg.T.Shin	5052
Entodon	divercinervis		Card.	TYPUS	ex.Herb. (Kyoto Univ.)	Oct.1906	Korea,Queleaait	Leg.U.Faurie (No.274)	
Entodon	tereticaulis		Nog.	TYPUS		Sep.24.1956	薩摩出水市定の段	Leg.M.Midzutani	17056
Entodon	crassiranesis		Sakurai	TYPUS, Co-type		Aug.18.1932	日向牛峠岩上	Leg.Y.Doi (No.991)	
Entodon	rigidius		Noguchi	TYPUS, ex type		May 15 1932	伊勢菰野山	Leg.村田吉太郎 (from.A.Noguchi)	9322
Entodon	dependens		Sakurai	TYPUS, Co-type	E.calycinus	April 16 1933	大隅栗野岳朽樹上	Leg.Y.Doi (No.1124)	9123
Entodon	herbaceus		Besch.	TYPUS, Iso-type	from Herb.Kyoto Univ.	March.1.1894	Nagasaki	Leg.U.Faurie (No.15332)	
Entodon	calysinus		Card.	TYPUS, Iso-type		July 1900	Japan, Kyusyu,Sakurajima on bark	Leg.U.Faurie (No.1309)	
Entodon	pilifer		Brosh,et Par.	TYPUS		Julio 1902	Japn,Treppe de Hakodate	Leg.U.Faurie (No.1922)	
Entodon	Fauriei		Broth et Par.	TYPUS	from Isotype Herb.Kyoto Univ.	July 1900	Japan : Ibusuki	Leg.U.Faurie (No.548)	
Entodon	flaccidus		Besch.	TYPUS	ex.Herb.Kyoto,Univ.	dec.1893	Japan Province Ise	Leg.U.Faurie (No.11304)	
Entodon	curratirameus		Card.	TYPUS,Isosyntypus	from Herb.Kyoto Univ.	May 20.1906	Korea, Pomasa	Leg.U.Faurie (No.226)	
Entodon			Besch.	TYPUS			Mt.Kuronaru,Pref.Higo	Leg.K.Mayebara	7535
Entodon	bungoensis		Nag.	TYPUS		Dec.31.1948	九州大分県大野郡白山村大白谷石灰岩上	佐藤眞一(野口氏より)	17059
Gloseadelphus	perniteus		Sakurai	TYPUS, Co-type		March 30 1933	大隅高隈山麓河川岩上	Leg.Y.Doi (No. 1130)	9089
Entodon	morrisonensis		Nog.(ex type)	TYPUS		Aug.21.1932	台湾台中州栗々	Leg.A.Noguchi (from A.Noguchi)	9323
Entodon	viridulus		card.	TYPUS	ex Isosyntypus (Kyoto Univ.)	Oct.1906	Loc.Korea : rarius de Hongno,Quelpaert	Leg.Uefain Faurie (No.267)	
Entodon	dolichocucullatus		S.Okamura	TYPUS,ex-Holotype		Jan.1.1914	Formosa, Taihoku,Sozansyo, on tree	Leg.Y.Shimada	
Entodon	tosae		Besch.	TYPUS	ex Herb.Kyoto Univ.Isosyntype	Nov.19.1893	Cimetiere de Kochi	Leg.U.Faurie (No.11220)	
Entodon	tosae		Besch.	TYPUS		Nov.21.1893	Chateau de Kochi	Leg.U.Faurie (No.11225),Leg.T.Shin	

Entodon	Chloroticus	Besch.	TYPUS	Isotypes,Kyoto Univ.	Feb.19.1895	Shusenji, Prov.Idzu	Leg.U.Faurie (No.15209)	
Entodon	Andoi	S.Okamura	TYPUS, ex.Syntype		Oct.17.1913	本州 Hitachi,Mito,Tokiwa Park,submerged in water	Leg.I.Ando	
Entodon	arenosus	S.Okamura	TYPUS, Holotype		Dec.19.1914	Japan Prov.Iyo,Uguisudani, Tamatsu-mura,Nii-gun	Leg.Tsuataro Ota	
Entodon	Doii	Sakurai	TYPUS		March 29, 1934	九州 Prov.Osumi,Oairamura, on the bark and rocks	Leg.Y.Doii (No. 1258)	
Entodon	Maebarae	Nog	TYPUS		Feb.15.1931	肥後一勝地	Leg.K.Mayebara (205)野口氏より	17058
Plagiothecium	shinii	Sakurai	TYPUS, iso-type		July 23.1939	台湾垂里山神木 - 高山植物園入口	Leg.T.Shin	834
Plagiothecium	Shinii	Sakuraisp. nov.	co-type		July 23 1939	台湾垂里山神木 - 高山植物園入口	Leg.T.Shin	834
Plagiothecium	saxicola	Sak.sp.nov.	Co-type		1933, 4/1	本州 安藝国福王子山 (岩上)	Leg.K.Doii (No.1049)	4358
Plagiothecium	bilo-insulare Sak.sp.nov.				Nov.7.1950	大隅志布志町枇榔島	Leg.T.Shin	7446
Plagiothecium	hirishirensis	Sak.			Oct.27.1950	大隅霧島山神宮 - 湯之野温泉	Leg.T.Shin	7241
Plagiothecium	shiyobhyllum	Sak.sp.nov.	Co-type		1930, 10/8	九州肥後国市房山 (地上)	Leg.Y.Doii (No. 361)	4359
Plagiothecium	Dolichotheceum	Sak.sp.nov.	未發表Co-type		1939, 16/8	九州 肥後国内大臣山 (岩上)	Leg.Y.Doii (No. 1640)	4360
Plagiothecium	japonicum	Sak.			May 26.1949	九州薩摩櫻島湯之	Leg.T.Shin	5871
Plagiothecium	japonicum	Sak.			May.26.1949	九州薩摩櫻島	Leg.T.Shin	5877
Plagiothecium	japonicum	Sak.	n.sp.		May.26.1949	九州薩摩櫻島湯之	Leg.T.Shin	5890
Plagiothecium	japonicum	Sak.	n.sp.		May 26 1949	九州薩摩櫻島	Leg.T.Shin	5889
Plagiothecium	japonicum	Sak.		sakurajimaense n.sp.	May 26.1949	九州薩摩櫻島湯之	Leg.T.Shin	5870
Plagiothecium	japonicum	Sak.		sakurajimaense n.sp.	May.26.1949	九州薩摩櫻島湯之	Leg.T.Shin	5876
Plagiothecium	satsumense	Sak.	sp.nov.		June 5.1950	薩摩伊集院町太田自宅裏山	Leg.T.Shin	6811
Plagiothecium	Syloticum	var.minntulalum	Sak.	var.nov.	Sept.25.1949	薩摩紫尾山	Leg.T.Shin	5971
Acanthocladium	Doii	Sakurai	Iso-TYPUS, Co-type		May 24 1931	大隅栗野岳岩上	Leg.Y.Doii (No.588)	9087
Rhynchostegium	bicolea	Sakurai			March 30 1934	大隅高隈山岩上	Leg.Y.Doii (No.1292)	9084
Brotherella	yokohamae	flongiseta	sakurai	TYPUS, Co-type	Oct.17.1931	薩摩紫尾山樹上	Leg.Y.Doii (NO.662)	9105
Brotherella	paraphyllea		Sakurai	Co-type	Sapt.24.1943	Iyo Nakakagi Komoto	Leg.K.Oti (No.498)	7714
Brotherella	Henoni	var.breviseta	Sakurai,n. var.		April 10.1947	Prov.Iyo,Sumino, Itinomori	Leg.K.Oti (No.1613)	7715
Brotherella	Otti		Sakurai		Aug.9.1949	Prov.Iyo,Mt.Ishizuti	Leg.K.Oti (No.3510)	7709
Brotherella	herbacea		Sakurai,n. sp.		Aug.9.1949	Prov.Iyo,Mt.Isizuti	Leg.K.Oti (No.3371)	7710
Brotherella	planissinus	var.papillata	sakurai		Aug.9.1949	Prov.Iyo,Mt.Ishizuti	Leg.K.Oti (No.3506)	7711
Brotherella	hypuoides		Sakurai,n. sp.		Aug.5.1949	Prov.Iyo,Mt.Ishizuti	Leg.K.Oti (No.3291)	7762
Brotherella	barbelloides	var.viridis	Sakurai		Sept.26.1943	Prov.Iyo.Tonaruru	Leg.K.Oti (No.514)	7713
Brotherella	rebustula		Sakurai	TYPUS, Co-type	Oct.19.1930	薩摩金峯山	Leg.Y.Doii (No. 481)	9103
Brotherella	falcata	Fl.		Det.K.Sakurai	March 30 1934	大隅高隈山樹皮上	Leg.Y.Doii (No. 1283)	9140
Brotherella	falcata	(D.M.)Fl.			Nov.16.1947	Prov.Iyo,Mt.Mitsumoritoge	Leg.K.Oti (No.2085)	7716
Platygygium	perichaetiale	Card.	TYPUS, Isotype	ex.Herb.Kyoto Univ.	10,Anns.1906	Corea:Quelpnest	Leg.U.Faurie (No.296)	
Gollania	arisanensis		Sakurai		July,23.1939	台湾垂里山神木 - 高山植物園入口	Leg.T.Shin	8 2
Gollania	arisanensis		Sakurai	isosyn-TYPUS	July 23 1939	台湾垂里山神木 - 高山植物園入口	Leg.T.Shin	892
Gollania	arisanensis		Sakurai	isosyn-TYPUS	July 24.1939	台湾新高山垂里山 - タータカ	Leg.T.Shin(882)	

Gollania	arisanensis		Sakurai	isosyn-TYPUS		July 24,1939	台湾新高山垂里山 - タータカ	Leg.T.Shin(892)	
Hypnum	Matsuii		Sakurai.sp. nov.	Co-type		May.5.1950	本州播磨宗栗郡赤西国有林	Leg.M.Matsui (No.567)	6763
Isopterygium	planifrons		Sakurai		Det.K.Sakurai	July.26 1932	大隅屋久島小杉谷 - 安房湿地岩上	Leg.Y.Doi (No. 832)	9182
Isopterygium	subalberous		Broth.		Det.K.Sakurai	Feb.26 1933	薩摩郡山村	Leg.Y.Doi (No 1091)	9180
Isopterygium	tozaense		Broth.			Feb.8.1928	薩摩日置村	Leg.Y.Doi (No.507)	9179
Isopterygium	capitulatum		Sak.			昭和24年 8月8日	愛媛県石槌山	Leg.K.Oti (No.3480)	7727
Isopterygium	erguifalium				Det.K.Sakurai	March 1 1931	薩摩田布施村	Leg.Y.Doi (No. 831)	9178
Homomallium	leskuoides		Sakurai	Co-type		Jan.5.1931	薩摩重平山岩上	Leg.Y.Doi (No. 464)	9107
Homalothecium	laevisetum		Lac		Det.K.Sakurai	April 2 1932	大隅十曾山	Leg.Y.Doi (No. 732)	9166
Homomallium	japonikadnatum		Broth.		Det.K.Sakurai	June 11 1930	薩摩冠岳	Leg.Y.Doi (No. 270)	9164
Homomallium	Kiusiense		Sakurai	TYPUS, Co-type		June 11 1930	薩摩冠岳	Leg.Y.Doi (No. 291)	9109
Homomallium						Xjuly 26.1953	X岩手県(陸中)西磐井郡殿美村瑞山~須川温泉栗駒	X H.Ando	
Ectropothecium	subihenbans		Sakurai			Feb.26 1933	薩摩郡山村花尾岳岩上	Leg.Y.Doi (No. 1083)	9093
Ectropothecium	dealbatum		Jaag.	Co-type		July 26 1932	大隅屋久島小杉谷 - 安房杉樹上	Leg.Y.Doi (No.845)	9094
Ectropothecium	planuloides		Sakurai	Co-type		April 2 1932	大隅十層山樹上	Leg.Y.Doi (No. 743)	9095
Ectropothecium	oshimense		Card.ether		E.kiusience Broth.	March 30 1938	大隅内之浦町	Leg.Y.Doi (No. 1605)	9159
Ectropothecium	dealbatum		Jaeg		Det.K.Sakurai	July 26 1932	大隅屋久島小杉谷 - 安房杉樹上	Leg.Y.Doi (No. 844)	9160
Taxiphyllum	subassimile		Sakurai		Det.K.Sakurai	Aug.11 1933	大隅屋久島一湊樹上	Leg.Y.Doi (No. 1193)	9206
Taxiphyllum	brevipes		Sak.	Co-type, n.sp		Oct.27 1950	大隅霧島山神宮 - 湯之野温泉	Leg.T.Shin	7187
Taxiphyllum	mitidulum		Sakurai	Co-type		Aug.10 1949	Prov.Iyo,Mt.Ishizuti Kogutidani	Leg.K.Oti (No.3095)	7729
Ctonidium	soberrinum	var.erecto-condenantium Dix.et Sak.				Aug.1924	薩摩伊集院町	Leg.Y.Doi (No. 1491)	9070
Ctenidium	plumicaule		Fl.		Det.K.Sakurai	July 27 1932	大隅屋久島小杉谷 - 花之江川	Leg.Y.Doi (No.905)	9146
Ctenidium	Hostile		Dr.		Det.K.Sakurai	Dec.29 1930	薩摩伊集院町	Leg.Y.Doi (No. 487)	9147
Ctenidium	Plumicaule		Fl.		Det.K.Sakurai	Feb.15 1931	薩摩伊集院町地上	Leg.Y.Doi (No. 506)	9148
Hylocomium	flagellare		Br.eur		Det.K.Sakurai	Nov.8 1931	薩摩川辺町湿地	Leg.Y.Doi (No. 709)	9165
Rhytidiadelphus	squairosus	subsp.japonicus Rei.				July 27 1932	大隅屋久島花之江川 - 小杉谷湿地	Leg.Y.Doi (No. 855)	9200
Cophelogia						July 29 1966	Ryukyu Isl.Okierabu 和泊町	Leg.T.Shin	23998
Platygygium						Aug.12 1948	屋久島宮浦	Leg.T.Shin	8736
Merceya	Mollissima		Sakurai			April 昭和21年	愛媛県宇摩郡別子山村小足谷	Leg.K.Oti (No.2232)	7721
Merceyopsis	sikokiana		Sakurai.n.sp.	type一部		昭和17年 1月8日	愛媛県宇摩郡別子山村日浦	Leg.K.Oti (No.52)	7720
Oxyrshynchium	Doii		Sakurai			Jan.27.1931	薩摩伊集院町	Leg.Y.Doi (No.490)	9125
Oxyrshynchium	tennissimus		Sakurai.sp. nov.			Dec.12.1949	薩摩金峰山	Leg.T.Shin	6174
Trachypodopsis	auriculata		Fl.			July,24 1939	台湾新高山垂里山 - タータカ	Leg.T.Shin	912

12 2005年度 専任教員の活動業績

大木公彦 [教授]

(1) 教育活動

- 1) 共通教育への貢献
共通教育科目「博物館へのいざない」担当
- 2) 専門教育への貢献
理学部専門科目「地球環境科学2」一部担当
理学部専門科目「海洋地質学」
理学部専門科目「古生物学実験」一部担当
理学部専門科目「地層学・古生物学実験」一部担当
水産学部専門科目「海洋地形地質学」
理工学研究科博士前期課程「古環境地質学特論」

(2) 研究活動

- 1) 著書
日本の地質 増補版 2005、8 共立出版株式会社、東京 374 pp. 日本の地質増補版編集委員会(編)第9章九州地方 331-335を担当
鹿児島観光・文化検定 公式テキストブック「かごしま検定」2005、12 南方新社、鹿児島、261 pp. 鹿児島商工会議所(編)第1章自然 11-58を担当
郡山郷土史 2006、3 郡山郷土史編纂委員会(編)鹿児島市教育委員会 946 pp. +資料編 119 pp. 第2編 地形と地質 17-42を担当
鹿児島シラス百景 監修 2006、3 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 No. 2 鹿児島大学総合研究博物館 111 pp.
- 2) 研究論文(査読なし研究報告等)
大木公彦(研究代表者;2005)重金属汚染が与えた底生有孔虫群集変化に関する研究. 平成13年度~平成15年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書、85 pp. +関係論文集.
大木公彦・折見 綾 2005 半閉鎖系鹿児島湾奥部、過去32年間の底生有孔虫群集の変化. 月刊海洋、37(11)、813-820.
大木公彦・Rifardi・富安卓滋 2006 南部八代海の海底表層堆積物の挙動と水銀汚染. 月刊海洋、38(2)、105-111.
- 3) 学会発表
富安卓滋・松山明人・江口朋美・大木公彦・赤木洋勝 水俣湾底質直上水の水銀含有量と底質からの水銀の移動. 化学学会、北海道大学(2005年5月)
井村隆介・大木公彦・山本琢也・青山尚友 明治・大正期における霧島火山の噴火資料収集とそれをういた噴火の実態解明(その2). 第24回日本自然災害学会学術講演会、東北大学(2005年11月17日)
大木公彦・折見 綾 半閉鎖系鹿児島湾奥部、過去32年間の底生有孔虫群集の変化(予報). 日本地質学会西日本支部第152回例会、佐賀大学(2006年2月11日)
井村隆介・大木公彦・山本琢也・青山尚友 明治・大正期における霧島火山の噴火資料. 自然災害研究会西部地区部会、九州大学(2006年2月18日)

(3) 外部資金

- 競争的外部資金(代表者:間接経費を含まないもの)
科学研究費補助金 基盤研究(B)17340155「水銀汚染指標としての底生有孔虫群集変化に関する研究」
- 競争的外部資金(分担者:間接経費を含まないもの)
科学研究費補助金 基盤研究(B)15404003「人為的活動により環境中に放出された水銀の挙動とその周辺環境への影響評価」

(4) 社会貢献

- 1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

日本地質学会西日本支部幹事
鹿児島県文化財保護審議会委員
鹿児島県立博物館協議会委員
鹿児島県環境影響評価専門委員
財団法人鹿児島県環境整備公社評議員

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

放送大学客員教授
熊本大学非常勤講師
熊本県立大学非常勤講師

3) 公開講座等講師

2005. 5. 21 郷土講座第1回「河内化石を学ぼう」、南種子町教育委員会主催、南種子町河内化石公園

2005. 5. 29 平成17年度ふるさと再発見「かごしま学舎」講座「いで湯の国「かごしま」のものがたり」、かごしま県民交流センター東棟3階大研修室

2005. 6. 2 スーパーサイエンスハイスクール事業「錦江湾の成り立ち」、鹿児島県立錦江湾高等学校、錦江湾洋上の貸し切り船上

2005. 6. 4 第19回かごしまフォーラム講演会「宮沢賢治の宇宙観－四次元の世界で遊んだ地質学者賢治の魅力について」、サンエールかごしま

2005. 6. 24 第9回研究交流会「八代海に水銀は広がっているか」、鹿児島大学総合研究博物館主催、総合教育研究棟2階 201号室

2005. 7. 15 田上小学校校内研究会「大地のつくり」、鹿児島市立田上小学校

2005. 10. 7 不動産鑑定士協会研修会「地形と地質」、社団法人鹿児島県不動産鑑定士協会、国際ジャングルパーク・ベイサイドガーデン

2005. 10. 11 スーパーサイエンスハイスクール事業「川と自然の探究活動」、鹿児島県立錦江湾高等学校、甲突川源流から河口まで

2005. 10. 23 鹿児島の近代化産業遺産を知る講座&まち歩き 講師：産業遺産を支える「石」のおはなし」、NPOまちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会、尚古集成館

2005. 10. 28 全国小学校理科研究大会公開授業ゲストティーチャー：「どうやってできた？ 鹿児島の大地」、鹿児島市立田上小学校

2005. 11. 20 1日大学福岡塾「かごしまを学ぶ」講座「あなたも鹿児島の温泉博士」、西日本天神文化サークル、天神ビル西日本天神文化サークル教室

2005. 12. 11 平成17年度ふるさと再発見「かごしま学舎」講座 講師：「かごしま・これからの「温泉」を考える」、かごしま県民交流センター東棟3階大研修室

2005. 12. 17 かごしま市民環境会議環境講座「地球のめぐみ－鹿児島の自然の素晴らしさ」、かごしま市民環境会議、鹿児島市ボランティアセンター

2005. 12. 18 阿久根郷土史会研修会「阿久根のお化石と自然の魅力」、阿久根郷土史会、阿久根市民会館

2006. 1. 12 鹿児島経済同友会新年例会 講師：「鹿児島の自然～火山と黒潮のめぐみ」、鹿児島経済同友会、鹿児島サンロイヤルホテル（1月12日）

4) 調査指導・協力

2005. 8. 10 文化財の調査指導「馬込おう穴、大出水」、県教育庁文化財課

2005. 9. 16 発掘作業（地質分析）の指導「鹿児島市郡山町・屋形尾遺跡」、鹿児島市教育委員会文化課

2005. 6. 16 宮崎総合博物館「化石展」の展示指導。宮崎県教育委員会

2005. 12. 13 鹿児島市立ふるさと考古歴史館整理作業（地質分析）の指導。鹿児島市教育委員会

2005. 12. 18 仁田尾遺跡整理作業に伴う出土石器の指導。鹿児島県立埋蔵文化財センター

(5) 報道関係

南日本新聞（2005. 4. 22）の金曜特捜隊でシラスを特集（ほぼ1面）し、単独取材を受ける。その他、新聞取材、テレビ取材を10回ほど受ける。

落合雪野 [助教授]

(1) 教育活動

- 1) 共通教育への貢献
共通教育科目「博物館へのいざない」担当
- 2) 専門教育への貢献
農学部科目「民族植物学」担当
農学研究科科目「民族植物学特論」担当

(2) 研究活動

- 1) 研究論文（査読なし研究報告等）
横山智・落合雪野（2005）『『有用植物村落地図』作成にむけて』総合地球環境学研究所研究プロジェクト4-2 2004年度報告書「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究：1945-2005」185-196.
落合雪野（2005）「植物自身にかたらしめよ」『中尾佐助著作集月報』6：6-7.
落合雪野（2005）「植物とともに暮らす—ミャンマー、シャン州の人とジュズダマ—」『Arctic Circle』55：4-9.
落合雪野（2005）「流行がうまれる—タウンジーのシャン・パンツをめぐって—」
鹿児島大学総合研究博物館ニュースレター 11：14.

2) 学会発表

- Yukino OCHIAI “Plant uses in secondary subsistence of hill peoples: From an ethnobotanical aspect” 2005年5月20日 The First International Conference on Lao Studies（北イリノイ大学、アメリカ合衆国）
- 落合雪野「台湾原住民によるジュズダマ属植物の利用とその変容」
2005年6月11日 第15回日本熱帯生態学会年次大会（京都大学時計台記念館、京都市）
- 落合雪野「ものが語るエスノボタニー 第5回特別展『植物のビーズ—おしゃれ！ジュズダマ』によせて」2005年10月21日 国立民族学博物館共同研究会（鹿児島大学総合研究博物館、鹿児島市）
- 落合雪野「共有される認知と加工—ジュズダマ属植物の利用からみた東南アジア大陸部の地域特性—」2005年11月12日 科学研究費特定領域 自然資源の「認知と加工」班研究会
- Yukino OCHIAI “Sharing common knowledge and practice in plant uses - A basic feature of MMSEA revealed by ethnobotanical field survey of Coix species, Gramineae”
2006年2月18日 国連大学プロジェクト（京都大学東南アジア研究所、京都市）
- Yukino OCHIAI and Satoshi Yokoyama “Plant uses mapping in villages of northern Laos: an ecological approach for allocation and process” 2006年3月15日 International Workshop on Indigenous Eco-knowledge and Development in Northern Laos（ウドムサイ県農林業事務所、ラオス）
- 落合雪野「東南アジア大陸部山地のジュズダマとハトムギ—過程としてのドメスティケーションを考えるところみ—」2006年3月25日 国立民族学博物館共同研究会「ドメスティケーションの民族生物学的研究」（国立民族学博物館、吹田市）

(3) 外部資金

- 競争的外部資金（代表者：間接経費を含まないもの）
科学研究費補助金 若手研究B 15710184「有用植物の利用からみた東シナ海東部島嶼域の地域特性」
- 競争的外部資金（分担者；間接経費を含まないもの）
科学研究費補助金 基盤研究B(1) 16402003「ミャンマー少数民族地域における生態利用と世帯戦略」代表者、速水洋子助教授（京都大学東南アジア研究所）

(4) 社会貢献

- 1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等
鹿児島県文化財保護審議会委員
熱帯生態学会広報幹事
- 2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

国立民族学博物館共同研究員
総合地球環境学研究所共同研究員
京都大学東南アジア研究所学外研究協力者

(5) **調査研究**

- 2005年5月19日-24日 アメリカ合衆国北イリノイ州北イリノイ大学 First International Conference on Lao Studiesへの参加 総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2 「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究：1945-2005」
- 2005年7月6日-15日 フィリピン、南コタバト州 ティボリ人による植物利用に関する現地調査 科学研究費補助金若手研究 (B) 「有用植物の利用からみた東シナ海東部島嶼域の地域特性」
- 2005年8月14日-29日 ラオス、ポンサリー県 有用植物地図作成に向けての現地調査 総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2 「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究：1945-2005」
- 2005年12月29日-1月23日 ミャンマー、チン州、サガイン管区 チン人、ナガ人による生態資源利用に関する現地調査 科学研究費補助金基盤研究 (B) (1) 「ミャンマー少数民族地域における生態利用と世帯戦略」
- 2006年3月12日-20日 ラオス、ウドムサイ県農林業事務所 International Workshop on Indigenous Eco-knowledge and Development in Northern Laosへの参加と展覧会の開催 総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2 「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究：1945-2005」

橋本達也 [助教授]

(1) **教育活動**

- 1) 共通教育への貢献
共通教育科目「博物館へのいざない」担当
共通教育科目「鹿児島探訪-考古-」担当
- 2) 専門教育への貢献
教育学部「考古学概論」担当
教育学部「博物館概論」担当

(2) **研究活動**

- 1) 研究論文 (査読なし研究報告等)
- 橋本達也 2005「稲童21号墳出土の眉庇付甕」『稲童古墳群-福岡県行橋市稲童所在の稲童古墳群調査報告-』行橋市教育委員会 276~285p
- 橋本達也 2005「古墳時代中期甲冑の出現と中期開始論-松林山古墳と津堂城山古墳から-」『待兼山考古学論集』大阪大学考古学研究室 539~556p
- 橋本達也 2005「下堀地下式横穴墓群と南限の古墳時代社会」『大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(5) 下堀遺跡・大崎細山田段遺跡』大崎町教育委員会 210~213p
- 橋本達也 2005「大隅申良 岡崎古墳群の発掘調査-2002~2004-」『九前研通信』No. 16 九州前方後円墳研究会
- 橋本達也 2005「滑石製品出土遺跡地名表 鹿児島県」『第54回 埋蔵文化財研究集会 古墳時代の滑石製品-その生産と消費-』埋蔵文化財研究会 523~524p
- 橋本達也 2006「鹿児島のフィールド研究-列島西南端の古墳と地域間交流-」『鹿児島大学総合研究博物館ニュースレター』13 1~6p
- 2) 学会発表
- 橋本達也 2005・7・17「加世田市「六堂会」古墳の調査」『鹿児島県考古学会研究発表-平成17年度総会-』

(3) **外部資金**

- 競争的外部資金 (代表者：間接経費を含まないもの)
- 科学研究費補助金 萌芽研究 「古墳以外の墓制による古墳時代墓制の多角的研究」
- (株)パレオ・ラボ 年代測定に関する若手研究者支援助成「AMS 14C年代測定法による古墳

時代の年代研究」

競争的外部資金（分担者；間接経費を含まないもの）

科研費 基盤研究B(1) 平成14～17年度 「倭の五王の時代の国際関係に関する研究」

代表者 東潮（徳島大学教授）

科研費 基盤研究B(2) 平成15～17年度 「古墳分布南端域における出現期古墳の実証的研究」代表者 柳沢一男（宮崎大学教授）

国立歴史民俗博物館個別共同研究 平成16～19年 「マロ塚古墳を中心とした古墳時代中期武器武具の研究」代表者 杉井健（熊本大学助教授）

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

肝付町塚崎古墳群調査指導委員会委員

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

国立歴史民俗博物館共同研究員

3) 公開講座等講師

2005. 08. 28 奥山（六堂会）古墳発掘調査 現地説明会

2005. 11. 06 行橋市教育委員会 平成17年度行橋市歴史資料館特別展「稲童古墳群展－倭王に仕えた武人の実像－」特別記念講演「稲童古墳群に眠る首長たち－甲冑副葬古墳の性格－」行橋市中央公民館大会議室

2006. 02. 26 堺市教育委員会 文化財講座「古代人、鉄を着る－（国史跡）黒姫山古墳出土甲冑について」講演「黒姫山古墳を読み解く－空前の大量出土甲冑が語る五世紀の王権－」堺市立 M・Cみはらホール

4) 調査指導・協力

肝属郡肝付町塚崎古墳群発掘調査の指導

肝属郡吾平町（現鹿屋市）中尾遺跡出土資料の調査指導

曾於郡大崎町神領8号地下式横穴墓発掘調査協力

肝属郡串良町（現鹿屋市）岡崎15号墳発掘調査協力

(5) 調査研究

奥山（六堂会）古墳発掘調査（加世田市・現南さつま市）8月16日～9月8日 科研費萌芽研究「古墳以外の墓制による古墳時代墓制の多角的研究」

韓国南部の三国時代甲冑資料調査（大韓民国釜山市・金海市・晋州市）8月4日～8月8日 国立歴史民俗博物館個別共同研究「マロ塚古墳を中心とした古墳時代中期武器武具の研究」

山東省～浙江省における漢魏晋南北朝期資料の調査（山東省・江蘇省）12月17～24日 科研費基盤研究B(1)「倭の五王の時代の国際関係に関する研究」

(6) 報道関係

記事：「加世田の六堂会古墳 あす現地で説明会 鹿大博物館」南日本新聞 2005.08.27

コメント：清水哲男「国道を行く79 小さな墓（上） 国道226号加世田小湊六堂会古墳 豪族交流示す石棺技術」『南日本新聞』 2005.05.21

コメント：清水哲男「国道を行く80 小さな墓（中） 国道226号加世田小湊六堂会古墳 国家形成解明する道標」『南日本新聞』 2005.05.23

コメント：清水哲男「国道を行く81 小さな墓（下） 国道226号加世田小湊六堂会古墳 埋葬者は〈阿多隼人〉か」『南日本新聞』 2005.05.28

コメント：「須恵器の破片出土 肝付・塚崎古墳群 交易の拠点示す資料」『南日本新聞』 2005.12.09

コメント：「前方後円墳に地下式横穴墓 岡崎15号古墳」『南日本新聞』 2005.12.17

本村浩之 [助教授 2005年11月以降]

(1) 研究活動

1) 研究論文

Motomura, H. and T. Mukai. 2006 (Mar.). *Tonlesapia tsukawakii*, a new genus and species of freshwater dragonet (Perciformes: Callionymidae) from Lake Tonle Sap, Cambodia. Ichthyological Exploration of Freshwaters, 17 (1): 43-52.

2) 学会発表

Motomura, H., T. Mukai, A. Ohtaka, H. Katakura, T. Kamiya, T. Narita, T. Ishikawa, S. Tsukawaki, S. Sotham, T. Sambath, B. Bunnarin, N. Sokhorn, C. Rachna and D. Powkhy. 2005 (1-2 Dec.). Fishes of Lake Tonle Sap and Tonle Sap River, Cambodia. International Symposium on Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia. Ministry of Industry, Mines and Energy, Phnom Penh, Cambodia.

Mukai, T., H. Motomura, T. Ishikawa, H. Oyagi, Y. Araki, A. Ohtaka, T. Narita, S. Tsukawaki, S. Sotham, T. Sambath, B. Bunnarin, I. Sim, C. Rachna and D. Powkhy. 2005 (1-2 Dec.). DNA analysis of fishes in Lake Tonle Sap. International Symposium on Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia. Ministry of Industry, Mines and Energy, Phnom Penh, Cambodia.

Narita, T., A. Ohtaka, H. Motomura, T. Mukai, T. Ishikawa, V. Sophorn, C. Rachna and T. Vuthy. 2005 (1-2 Dec.). Food web structure study by natural stable isotope in Lake Tonle Sap, Cambodia – a preliminary report –. International Symposium on Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia. Ministry of Industry, Mines and Energy, Phnom Penh, Cambodia.

Ohtaka, A., H. Katakura, T. Kamiya, T. Narita, H. Motomura, T. Ishikawa, T. Mukai, Y. Kuwahara, S. Tsukawaki, V. Sophorn, C. Rachna and T. Vuthy. 2005 (1-2 Dec.). Diversity of aquatic invertebrates in Lake Tonle Sap. International Symposium on Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia. Ministry of Industry, Mines and Energy, Phnom Penh, Cambodia.

Watanabe, R., A. Ohtaka, H. Katakura, T. Kamiya, T. Narita, H. Motomura, T. Ishikawa, T. Mukai, S. Tsukawaki, V. Sophorn, C. Rachna and T. Vuthy. 2005 (1-2 Dec.). Seasonal changes of net-plankton communities in Lake Tonle Sap. International Symposium on Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia. Ministry of Industry, Mines and Energy, Phnom Penh, Cambodia.

Tsukawaki, S., H. Motomura, H. Katakura, S. Endoh, A. Ohtaka, Y. Okumura, Y. Hirabuki, T. Kamiya, T. Narita, S. Sotham, A. Choulean, T. Mukai, T. Ishikawa, Y. Araki and H. Oyagi. 2005 (1-2 Dec.). Research activities of the EMSB and EMSB-u32 teams in Lake Tonle Sap, Cambodia in 2003-2005. International Symposium on Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia. Ministry of Industry, Mines and Energy, Phnom Penh, Cambodia.

(2) 外部資金

競争的外部資金研究費

科学研究費補助金 (基盤研究B) 「カンボジアのトンレサップ湖における生物多様性維持機構の評価」研究協力者

オーストラリア連邦科学産業研究機関 研究助成金 「オーストラリア周辺水域におけるフサカサゴ科の分類学的研究」代表研究者

(3) 社会貢献

日本動物分類学会 編集委員

(4) 調査研究

第1回カンボジアのトンレサップ湖における生物多様性維持機構の評価国際シンポジウム 招待講演 (プノンペン市、鉱工業エネルギー省講堂) 11月30日～12月11日

国立科学博物館所蔵のフサカサゴ科魚類標本の再同定 同定依頼 (東京都、国立科学博物館)

新宿分館) 2月1日~10日

オーストラリア産魚類の分類学的研究および研究・標本管理のCSIRO-KAUM協力体制の構築 招待(ホバート市、オーストラリア連邦科学産業研究機関) 2月23日~4月2日

(5) 報道関係

特集「キビレヘビギンポ」と命名 八丈の岩礁域で人気の魚 イタリアの学術誌で論文発表。

南海タイムス、2006年1月1日

新「属」の魚 市場で発見 鹿児島大の研究グループ カンボジア・トンレサップ湖で捕獲。

毎日新聞(全国版夕刊)、2006年1月4日

Japanese researchers find new genus of fish in Cambodia lake. News at the Florida Museum of Natural History, Gainesville, USA. 2006年1月4日

淡水湖に新属の魚 カンボジアで鹿児島大チームが発見、毎日新聞(九州沖縄版朝刊)。

2006年1月5日

淡水湖で新属の魚 ネズッコ科 鹿大助教授ら発見 カンボジア、南日本新聞(朝刊)。

2006年1月6日

カンボジアのトンレサップ湖で魚の新属発見。NHK金沢放送局:おはよう日本 いしかわのニュース、2006年1月10日

研究室めぐり 鹿児島大学総合研究博物館 本村浩之助教授 魚の分類通し生態系保全、南日本新聞(朝刊)、2006年1月13日

トンレサップ湖特異性はっきり ネズッコ科初の淡水産 ツバメコノシロ種の分化 金沢大中心の調査チーム 本村助教授(鹿児島大)が報告、北陸中日新聞(朝刊)、2006年1月25日

トンレサップの魚たち 外来種と人間が影響 金大・塚脇助教授チーム調査研究 本村・鹿児島大学助教授が指摘 分類調査必要訴え、北陸中日新聞(朝刊)、2006年1月29日

世界遺産からのSOS 姿変える神秘の巨大湖 カンボジア・トンレサップ湖 アンコール支えた宝庫 都市化やダムの影、毎日新聞(全国版)、2006年1月30日

Freshwater dragonet described. Practical Fishkeeping Magazine, UK. 2006年3月1日

カンボジアの新種魚 調査尽力の金大助教授 荣誉「ツカワキイ」、北陸中日新聞(朝刊)。

2006年3月4日

福元しげ子 [助手]

研究 標本の修復・保存に関する研究。鹿児島大学の標本・資料に関わる研究者に関する研究。

鹿児島市の里山における動植物についての研究。

教育 鹿児島大学法文学部および教育学部にて開講の「博物館実習」の補助

社会貢献 鹿児島大学総合研究博物館第8回研究交流会「鹿児島フィールドミュージアムの構築」を開催した。ケーススタディとして参加した7つの自治体の担当者の発表および参加者との意見交換を行い、これまでの成果と今後の課題について討論した。

鹿児島アリーナで開催の「伊能忠敬大図展」を後援して、明治に作成された日本地質図(英文)を出品した。

第2回鹿児島大学子ども見学デー「探検!発見!大学の図書館と博物館」を開催した。

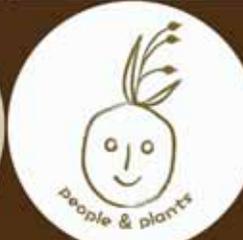
文部科学省生涯学習政策局生涯学習課で実施される「子ども見学デー」の一環として鹿児島大学附属図書館との共催企画として実施した。大学の中の施設を子どもたちと保護者が一緒に見学することによりふれあいを深め、社会を広く知る夏休みの体験学習の機会にしようというものである。

鹿児島大学
総合研究博物館
第5回
特別展







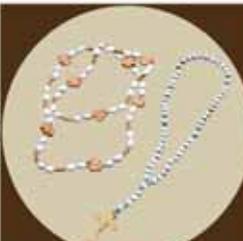


people & plants

植物のビーズ Decorating with Plants
-Job's tears materials from the world-

おしゃれ! ジュズダマ





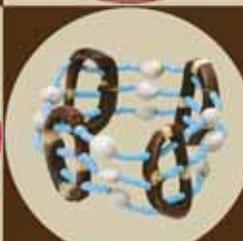












ジュズダマで作る
ジュズダマを飾る

世界各地で暮らした人の資料を通して
人と植物のおしゃれで美しい関係を
ご紹介します





















入場は
無料
です



2005年10・17(月) ▶ 11・16(水) 毎日開催します

とぎ 10:00~17:00(入場は16:30まで)

ところ 鹿児島大学郡元キャンパス
総合教育研究棟2階プレゼンテーションホール

出演 第9回市民講座「山地に暮らす人々-その歴史と文化」
とぎ: 10月29日(土) 14:00-16:00 講師: クリスチャン・ダニエルス(東京外国語大学教授)
ところ: 郡元キャンパス総合教育研究棟201室 参加費は無料です。発表や討論は日本語でお願いします

協力 会場デザイン: Factory1202

主催 鹿児島大学総合研究博物館 **TEL** 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267 (担当: 濱谷)
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp>

ポスターデザイン: 久米啓一

無料
どなたでもお申し込みください



鹿児島大学総合研究博物館 第3回市民講座
雪舟と桂庵玄樹
講師 渡辺雄二

本学開設五〇周年を迎える雪舟は、室町時代の禅僧画師として、広く知られています。雪舟の市民講座では、薩摩の地で雪舟と桂庵玄樹の交流と雪舟との関係に焦点を当て、桂庵玄樹についてお話しいたします。

▼と き 2005年5月14日(土)
14:00-16:00
▼と ころ 鹿児島大学 総合教育研究棟 201室

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市東元1-21-30
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267
e-mail: MUSEUM@kaum.kagoshima-u.ac.jp (直営:大木)

鹿児島大学総合研究博物館
第9回研究交流会

入場無料
どなたでもお申し込みください

世界の水銀汚染と水俣

- 講演1 「世界の水銀汚染を捉える」
赤木洋勝 (国際水銀ラボ)
講演2 「八代海に水銀は広がっているか」
大木公彦・富安卓滋 (鹿児島大学)



赤木洋勝の名で世界に知られる高感度水銀分析法開発の裏話を交え、水俣の水銀汚染、現在も進行している世界の水銀汚染について紹介する。

と き 2005年6月24日(金)
16:30-18:00

と ころ 鹿児島大学 都元キャンパス
総合教育研究棟 201室

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市東元1-21-30
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267
email: museum@kaum.kagoshima-u.ac.jp (担当:大木)

鹿児島大学総合研究博物館 第3回自然体験ツアー
これもつかえる・あれもつかえる
—身体をつつむかたち—

2005年7月30日(土)10:00-17:00
鹿児島県鹿児島市の森
鹿児島県鹿児島市東元1-21-30
鹿児島大学総合研究博物館 3階301号室
参加費: 無料
申し込み: 鹿児島大学総合研究博物館 庶務課 099-285-8141
申し込み期限: 2005年7月23日(土)17:00迄
申し込み先: 鹿児島大学総合研究博物館 庶務課 099-285-8141
申し込み用紙: 鹿児島大学総合研究博物館 庶務課 099-285-8141
申し込み方法: 鹿児島大学総合研究博物館 庶務課 099-285-8141
申し込み期限: 2005年7月23日(土)17:00迄
申し込み先: 鹿児島大学総合研究博物館 庶務課 099-285-8141
申し込み用紙: 鹿児島大学総合研究博物館 庶務課 099-285-8141
申し込み方法: 鹿児島大学総合研究博物館 庶務課 099-285-8141

鹿児島大学総合研究博物館 第5回特別展
「植物のビーズおしゃれ! ジュズダマ」関連イベント

ティボリの音楽とダンス
フィリピン、ミンダナオ島から

ティボリ人とアクセサリー
フィリピン、ミンダナオ島南部の山地には、ティボリと呼ばれる人々が暮らしています。ティボリ人たちは、とても上手にビーズ職工をつくります。第5回特別展「植物のビーズおしゃれ! ジュズダマ」では、ティボリ人がジュズダマを素材につくったアクセサリーを展示しました。

ティボリ人とダンス
また、ティボリの人たちは、独自の音楽とダンスを伝承しています。そしてその踊り手は、アクセサリーをたくさん身につけて踊ります。そのような展示機会場で実演するのが、ミンダナオ島出身の長瀬アガリンさんです。また、石井正子さんは、ティボリ人の音楽やダンスについて解説します。ふたりの演技とお話をぜひ、お楽しみください。

2005 10・18 火
と き: 12:00-13:00 15:00-16:00
と ころ: 鹿児島大学都元キャンパス
総合教育研究棟2階プレゼンテーションホール
講 師: 長瀬アガリン(KAFFRINEセンター代表)
石井正子(国立民族学博物館助手)
参加は無料です。どなたでもお申し込みください。

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市東元1-21-30
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267 (担当:大木)
http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp



鹿児島大学総合研究博物館 第10回 研究交流会

**黒潮を渡った
旧石器時代の人びと**

◇12月3日(土) 13:30～17:00 参加費無料

講演1 「鹿児島の旧石器時代—最近の調査成果より—」
宮田栄二 (鹿児島県埋蔵文化財センター)

講演2 「旧石器時代の鹿児島の環境」
井村隆介 (鹿児島大学理学部)

講演3 「世界最古の航海民—琉球列島の旧石器文化—」
小田静夫 (元東京都教育庁・東京大学講師)

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟 201号室

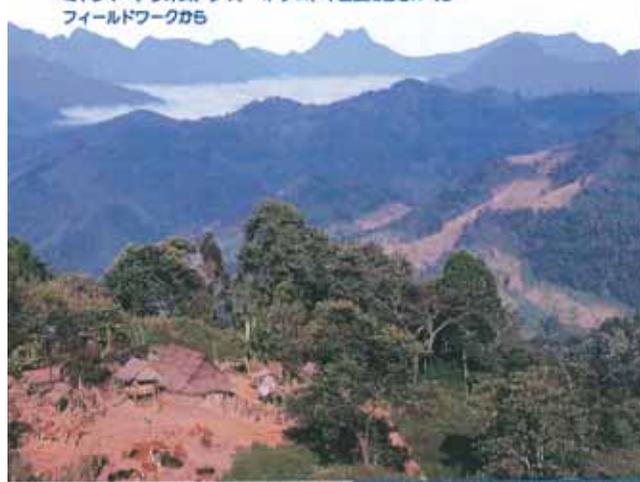
問い合わせ：099-285-8141 (博物館代表)
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館

鹿児島大学総合研究博物館 第9回市民講座

山地に暮らす人々
-その歴史と文化-

ミャンマー、ラオス、タイ、ベトナム、中国雲南省をめぐる
フィールドワークから



2005年10月29日(土) 14:00～16:00

ところ：郡元キャンパス総合教育研究棟201号室
講 師：クリスチャン・ダニエルズ(東京外国語大学教授)
発表や討論は日本語でおこないます

入場無料

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
Tel: 099-285-8141
Fax: 099-285-7262 (総合課)
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館

この市民講座では、東山田教授「植物のヒートショック」(シシトフ)で講演していただき、講演資料を配布いたします。東山田教授の山田植物学と文化の関係をテーマに、学芸員と市民の対話をします。山田植物学は、そのような植物の学芸員と市民の対話を進めてまいりたいと思います。入場料や会場費などについて詳細は講演会当日配布のパンフレットをご覧ください。お申し込みは無料です。お申し込みは、お電話かメールでお願いします。

鹿児島大学総合研究博物館 第5回公開講座

アートを楽しむ段取り

- とき：2006年1月28日(土) 14:00-16:00
- ところ：鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟 201号室
- 講師：宮園 広幸 (鹿児島県立松尾高校教諭、造形作家、元鹿児島県島アート協会の森学委員)

○メッセージ
身近な生活に接近してきた、今日の多様化したアートの楽しみ方を、文化行政、キュレーション、美術館教育、国際協力、展覧制作など多面的な視点で、活発な表現や鑑賞を楽しむための段取りを提案いたします。

- ▲主催 鹿児島大学総合研究博物館
- ▲問い合わせ
〒890-0064 鹿児島市郡元1-21-30
電話 099-285-8141 ファックス 099-285-7267 (総合課)
博物館HP <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

参加費は無料です
どなたでもおこしくください



鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.5

2005

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum

890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 1-21-30, Kohrimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

Printed in Japan

2007. 3. 30